

令和2年～令和3年度 住宅審議会（住生活基本計画改定）スケジュール（案）

年度		令和2年	令和3年			
月		1 - 3	4 - 6	7 - 9	10 - 12	1 - 3
住宅審議会		<p>◆第3回（3月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民アンケート報告 ・県計画の視点等検討 	<p>◆第1回（5月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県計画検討（骨子案） <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 高齢者居住安定確保計画 賃貸住宅供給促進計画 両計画の規定事項を包含 </div>	<p>◆第2回（8月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県計画検討（素案） 	<p>◆第3回（10月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県計画検討（最終案） <p>◆第4回（12月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県計画（答申） 	
住生活基本計画策定	意見募集			<p>素案パブリックコメント（8月）</p> <p>市町村意見照会 建築関係団体意見照会（9月）</p>		<p>計画公表</p>
	調査等	<p>県民アンケート調査（1月）</p>				

《長野県の住宅に係る計画について》

資料2-2

計画名	目的	策定状況	根拠法令	現計画(期間)	規定事項等	見直し期間 (次期見直し年度)
住生活基本計画	住民の住生活の安定の確保及び向上	○	住生活基本法 (※義務規定)	2016年度～ (H28) 2025年度 (R7)	○住民の住生活の安定の確保及び向上の促進に関する 基本方針 ○住民の住生活の安定の確保及び向上の促進に関する 目標 ○目標を達成するための 施策に関する事項 ○ 公営住宅の供給目標量	5年毎 <u>(2021年度)</u>
高齢者居住安定確保計画	高齢者の居住の安定の確保及び福祉の増進	○	高齢者の居住の安定確保に関する法律 (高齢者住まい法) (※任意規定)	2018年度～ (H30) 2023年度 (R5)	○高齢者に対する賃貸住宅や老人ホームの 供給目標 (戸数等) ○高齢者の居住の安定の確保に関し必要な事項(施策に関する事項(例)バリアフリー化促進サ高住登録要件の付加・緩和等)	3年毎 <u>(2021年度)</u>
賃貸住宅供給促進計画	住宅確保要配慮者に対する賃貸住宅の供給の促進	×	住宅確保要配慮者に対する賃貸住宅の供給の促進に関する法律 (住宅セーフティネット法) (※任意規定)	-	○住宅確保要配慮者円滑入居賃貸住宅の 供給目標(戸数) ○住宅確保要配慮者の民間賃貸住宅への円滑な入居の促進に関すること(施策に関する事項(例)登録要件の緩和等)	-
《参考》 公営住宅等長寿命化計画	住宅確保要配慮者の暮らしの確保 県営住宅ストックの有効活用と長寿命化による居住環境の改善	○	-	2016年度～ (H28) 2027年度 (R7)	○公営住宅供給目標量(戸数) ○県営住宅の管理・整備方針	5年毎 <u>(2021年度)</u>

令和2年度
住まいに関する
県民インターネットアンケート
調査報告書

令和3年（2021年）1月29日～2月1日

長野県建設部

1 調査の目的

この調査は、平成27年度を初年度とする長野県住生活基本計画の見直し等にあたり、県民の住宅及び住環境に関する現状、意識、ニーズ等を把握し、基礎資料とする目的で実施された。

2 調査の項目

- 1 住宅の環境対策について
- 2 住宅の地震対策について
- 3 高齢社会における住宅対策について
- 4 空き家対策について
- 5 公営住宅のあり方について
- 6 賃貸住宅に対するニーズ
- 7 景観について
- 8 地域コミュニティについて
- 9 これからの信州の住まい方について
- 10 その他

3 調査の設計

この調査は、次の通り設計した。

- (1) 調査対象 長野県内に住む満18歳以上の男女個人
- (2) 調査対象者数 1,000人
- (3) 抽出方法 Webモニターのパネルから抽出
- (4) 調査方法 WEB調査
- (5) 調査時期 令和3年(2021年)1月29日(金)～2月1日(月)

4 割付

年齢	東信地域	南信地域	中信地域	北信地域	合計
18-29歳	41	41	41	41	164
30-39歳	42	42	42	42	168
40-49歳	42	42	42	42	168
50-59歳	42	42	42	42	168
60-64歳	42	42	42	42	168
65歳以上	41	41	41	41	164
合計	250	250	250	250	1,000

※長野県全域のモニターへ配信

5 回収対象者の分類

【地域】

		実数	割合
東信地域	上田市	99	9.9%
	東御市	21	2.1%
	佐久市	48	4.8%
	小諸市	31	3.1%
	坂城町	11	1.1%
	青木村	4	0.4%
	長和町	3	0.3%
	軽井沢町	16	1.6%
	御代田町	7	0.7%
	立科町	3	0.3%
	小海町	1	0.1%
	川上村	-	-
	南牧村	-	-
	南相木村	-	-
	北相木村	-	-
	佐久穂町	6	0.6%
	計	250	25.0%
	南信地域	諏訪市	21
茅野市		30	3.0%
岡谷市		22	2.2%
伊那市		34	3.4%
駒ヶ根市		16	1.6%
飯田市		54	5.4%
下諏訪町		11	1.1%
富士見町		4	0.4%
原村		3	0.3%
辰野町		11	1.1%
箕輪町		12	1.2%
飯島町		3	0.3%
南箕輪村		9	0.9%
中川村		2	0.2%
宮田村		1	0.1%
松川町		5	0.5%
高森町		5	0.5%
阿南町		-	-
阿智村		-	-
平谷村		-	-
根羽村		-	-
下條村		-	-
売木村		-	-
天龍村		-	-
泰阜村		1	0.1%
喬木村		3	0.3%
豊丘村		3	0.3%
大鹿村	-	-	
計	250	25.0%	

		実数	割合
中信地域	松本市	119	11.9%
	塩尻市	38	3.8%
	安曇野市	54	5.4%
	大町市	14	1.4%
	麻績村	-	-
	生坂村	1	0.1%
	山形村	3	0.3%
	朝日村	1	0.1%
	筑北村	1	0.1%
	池田町	1	0.1%
	松川村	3	0.3%
	白馬村	7	0.7%
	小谷村	1	0.1%
	上松町	1	0.1%
	南木曾町	1	0.1%
	木祖村	-	-
	玉滝村	-	-
	大桑村	1	0.1%
木曾町	4	0.4%	
計	250	25.0%	
北信地域	長野市	187	18.7%
	千曲市	18	1.8%
	須坂市	15	1.5%
	中野市	10	1.0%
	飯山市	5	0.5%
	信濃町	-	-
	小川村	1	0.1%
	飯綱町	5	0.5%
	栄村	1	0.1%
	小布施町	3	0.3%
	高山村	2	0.2%
	山ノ内町	2	0.2%
	木島平村	1	0.1%
	野沢温泉村	-	-
計	250	25.0%	

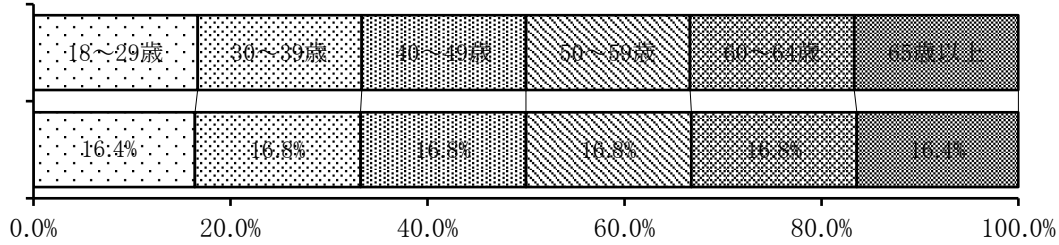
【住まいの地域】

	実数	割合
市街地(大きな都市の中心部)	182	18.2%
郊外の住宅地(大きな都市の中心部周辺や隣接町村)	480	48.0%
町村の中心部(中心集落)	149	14.9%
農山村中山間地	172	17.2%
保健休養地	9	0.9%
その他	8	0.8%
合計	1,000	100.0%

【年代】

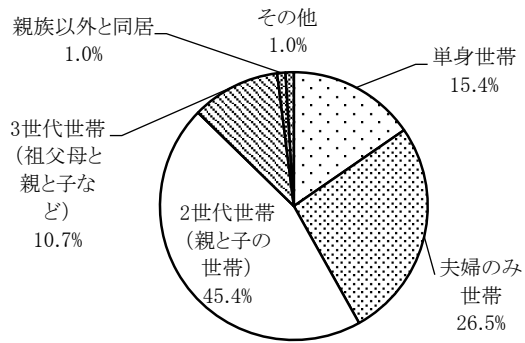
(上段実数:下段割合)

	総数	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上
全体	1,000	164	168	168	168	168	164
	100.0%	16.4%	16.8%	16.8%	16.8%	16.8%	16.4%



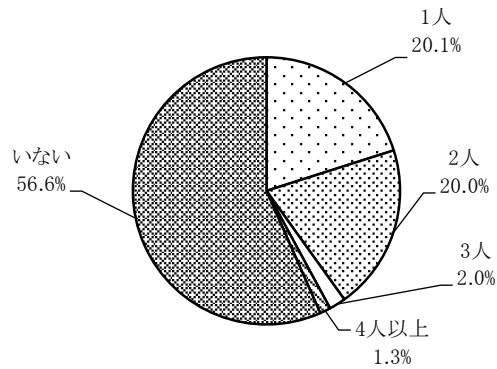
【世帯構成】

	実数	割合
単身世帯	154	15.4%
夫婦のみ世帯	265	26.5%
2世代世帯(親と子の世帯)	454	45.4%
3世代世帯(祖父母と親と子など)	107	10.7%
親族以外と同居	10	1.0%
その他	10	1.0%
合計	1,000	100.0%



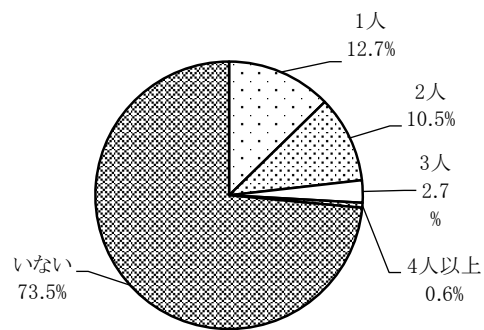
【65歳以上の方】

	実数	割合
1人	201	20.1%
2人	200	20.0%
3人	20	2.0%
4人以上	13	1.3%
いない	566	56.6%
合計	1,000	100.0%



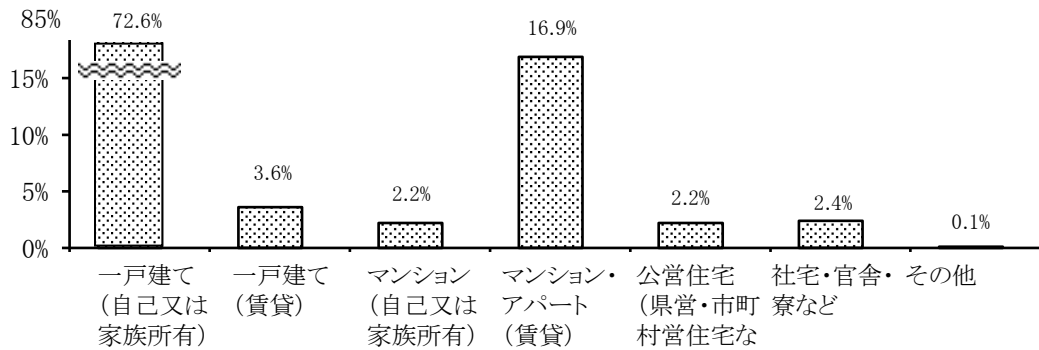
【18歳未満の方】

	実数	割合
1人	127	12.7%
2人	105	10.5%
3人	27	2.7%
4人以上	6	0.6%
いない	735	73.5%
合計	1,000	100.0%



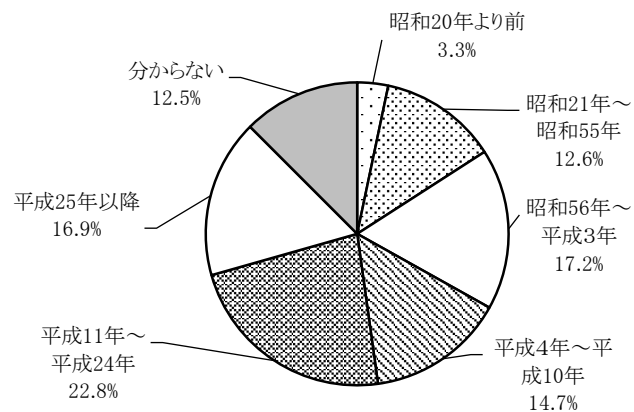
【住宅形態】

	実数	割合
一戸建て(自己又は家族所有)	726	72.6%
一戸建て(賃貸)	36	3.6%
マンション(自己又は家族所有)	22	2.2%
マンション・アパート(賃貸)	169	16.9%
公営住宅(県営・市町村営住宅など)	22	2.2%
社宅・官舎・寮など	24	2.4%
その他	1	0.1%
合計	1,000	100.0%



【築年数】

	実数	割合
昭和20年より前	33	3.3%
昭和21年～昭和55年	126	12.6%
昭和56年～平成3年	172	17.2%
平成4年～平成10年	147	14.7%
平成11年～平成24年	228	22.8%
平成25年以降	169	16.9%
分からない	125	12.5%
合計	1,000	100.0%



6 その他

- (1) 調査結果の数値は、原則として百分率で表記した。百分率の値は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記している。従って、比率の内訳を合計しても100%に合致しない場合がある。
- (2) アンケートへの回答は、単数回答と複数回答を求めた設問があり、複数回答を求めた設問では、比率の合計が100%を上回る場合がある。
- (3) 設問中の選択肢の文字数が多いものについては、本文中や図表中において便宜上短く省略している場合がある。

令和2年度 住まいに関する県民インターネットアンケート 集計結果（選択肢による回答のみ）

問1_お住まいの居住地を選んでください。

全体	東信	南信	中信	北信
1000	250	250	250	250
100.0	25.0	25.0	25.0	25.0

上段：回答数
下段：回答割合（%）以下設問も同様
グラフ内数値は回答割合（%）を表示

問2_お住まいの地域を選んでください。

全体	市街地（大きな都市の中心部）	郊外の住宅地（大きな都市の中心部周辺や隣接町村）	町村の中心部（中心集落）	農山村中山間地	保健休養地	その他
1000	182	480	149	172	9	8
100.0	18.2	48.0	14.9	17.2	0.9	0.8

問3_年齢を選んでください。

全体	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上
1000	164	168	168	168	168	164
100.0	16.4	16.8	16.8	16.8	16.8	16.4

問4_世帯の構成を選んでください。（同居世帯を含む）

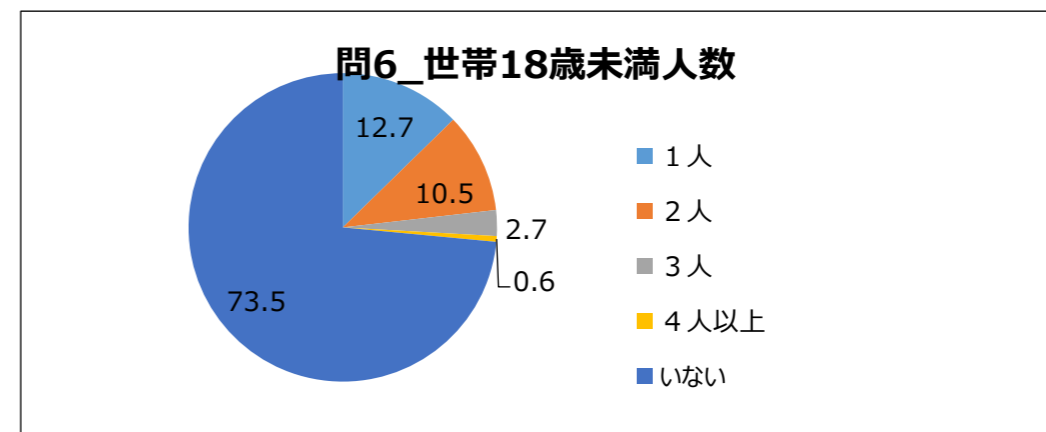
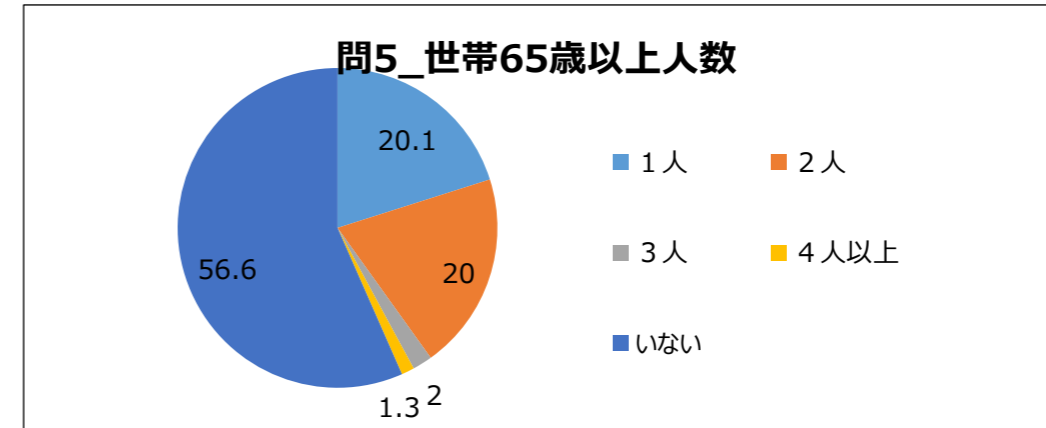
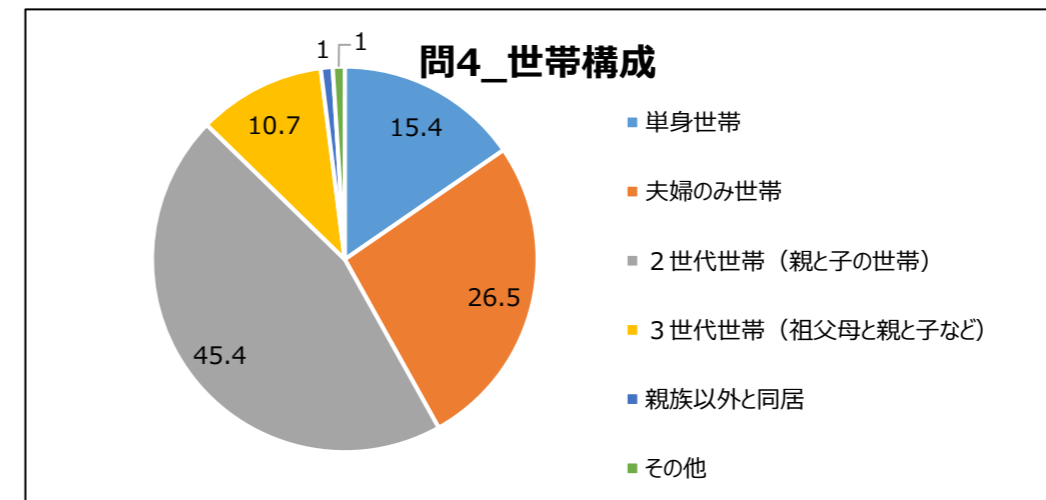
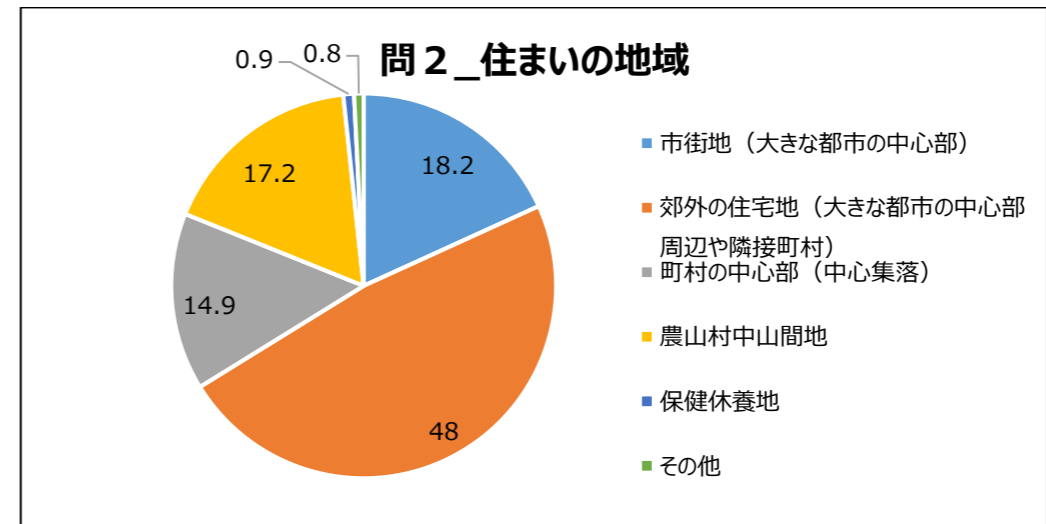
全体	単身世帯	夫婦のみ世帯	2世代世帯（親と子の世帯）	3世代世帯（祖父母と親と子など）	親族以外と同居	その他
1000	154	265	454	107	10	10
100.0	15.4	26.5	45.4	10.7	1.0	1.0

問5_世帯に65歳以上の方は何人いますか。※回答者本人含む。

全体	1人	2人	3人	4人以上	いない
1000	201	200	20	13	566
100.0	20.1	20.0	2.0	1.3	56.6

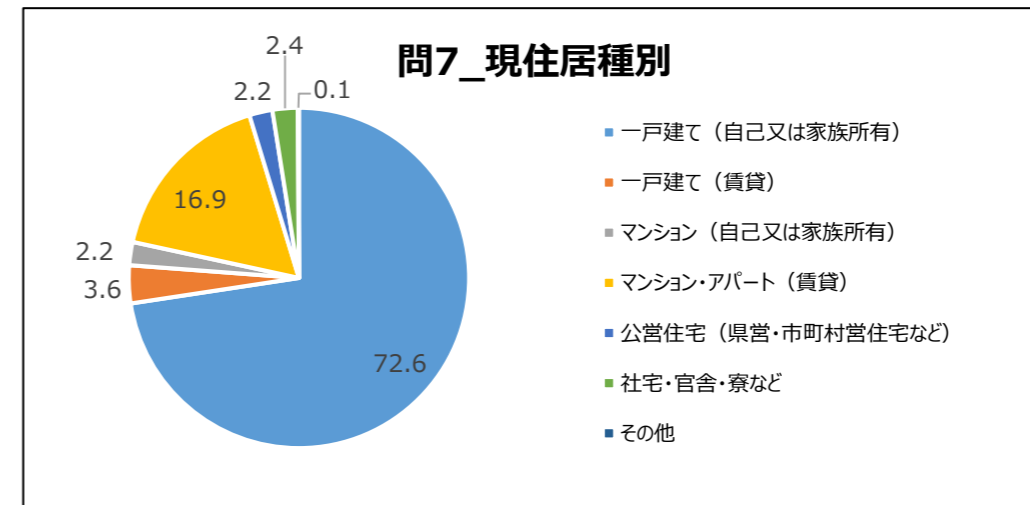
問6_世帯に18歳未満の方は何人いますか。※回答者本人含む。

全体	1人	2人	3人	4人以上	いない
1000	127	105	27	6	735
100.0	12.7	10.5	2.7	0.6	73.5



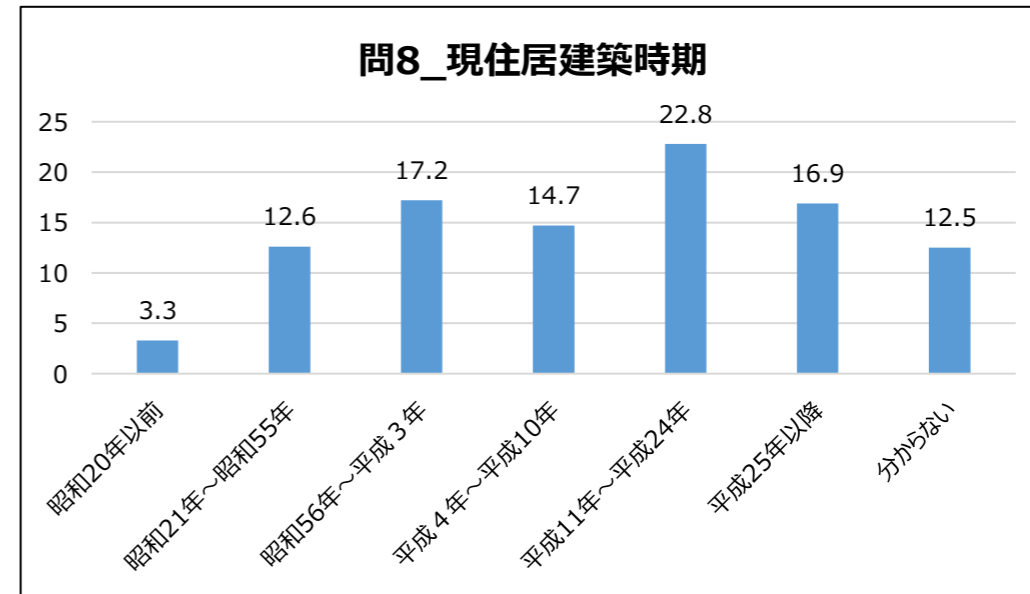
問7_現在住んでいる住宅は、次のどれに該当しますか。

全体	一戸建て (自己又は 家族所有)	一戸建て (賃貸)	マンション(自 己又は家族 所有)	マンション・ア パート(賃 貸)	公営住宅 (県営・市町 村営住宅な ど)	社宅・官舎・ 寮など	その他
1000	726	36	22	169	22	24	1
100.0	72.6	3.6	2.2	16.9	2.2	2.4	0.1



問8_現在住んでいる住宅は、いつ頃建築されましたか。

全体	昭和20年以 前	昭和21年～ 昭和55年	昭和56年～ 平成3年	平成4年～ 平成10年	平成11年～ 平成24年	平成25年以 降	分からない
1000	33	126	172	147	228	169	125
100.0	3.3	12.6	17.2	14.7	22.8	16.9	12.5



問9_「衣」「食」「住」のうち、あなたの「住」(住まい)は、10年前に比べて良くなっていますか。

全体	良くなっている	やや良くなっ ている	どちらとも言 えない	やや悪くなっ ている	悪くなっている
1000	191	140	467	137	65
100.0	19.1	14.0	46.7	13.7	6.5

【問9】
前回調査との比較[\[11ページ\]](#)参照

問10_自分が住んでもよいと思う住宅について、あなたの考えに最も近いものを次の中から選んでください。

全体	新築の持家が 良い	条件によっ ては中古持家 でも良い	賃貸住宅 (新築・中 古)が良い	特にこだわら ない
1000	451	258	62	229
100.0	45.1	25.8	6.2	22.9

【問10】
前回調査との比較[\[11ページ\]](#)参照

問11_(問10で1を選んだ方におたずねします。)中古住宅を選択しなかった理由を次の中から2つ以内で選んでください。

全体	早い時期にリ フォーム(修 繕や増改築な ど)が必要と なりそうだから	耐久性に問 題がありそう だから	資産価値の 割に価格が高 そうだから	他の人が利用 した住宅に住 みたくないから	希望通りの住 宅が見つかり にくそうだから	見えない部分 の状態に不安 があるから	断熱効果が 不十分(寒そ う)だから	その他
451	155	131	17	139	99	130	54	13
100.0	34.4	29.0	3.8	30.8	22.0	28.8	12.0	2.9

【問11】 前回調査との比較[\[11ページ\]](#)参照

問12_住宅を新築・購入するとしたら、どのような構造の住宅を選びますか。

全体	一戸建ての木 造住宅で、在 来工法のもの	一戸建ての木 造住宅で、在 来工法以外の もの(プレハ ブ工法、枠組 壁工法(2 ×4)など)	一戸建ての非 木造住宅 (鉄骨造や 鉄筋コンクリ ー造の住宅)	マンションなど の集合住宅	特にこだわら ない	その他
1000	352	145	122	69	308	4
100.0	35.2	14.5	12.2	6.9	30.8	0.4

【問12】 前回調査との比較[\[12ページ\]](#)参照

問13_ 住宅を新築したりリフォームするとしたら、どこに依頼しようと思いますか。※複数にあてはまる場合は、最もあてはまる依頼先をお答えください。

全体	大手ハウスメーカー	地元の大工・工務店	設計は設計事務所、建設は大工・工務店	特にこだわらない	その他
1000	277	265	89	361	8
100.0	27.7	26.5	8.9	36.1	0.8

【問13】 前回調査との比較【12ページ】参照

問14_ (問13で1から3を選んだ方におたずねします。) その主な理由を次の中から2つ以内で選んでください。

全体	技術力が高いから	経験が豊富だから	知名度が高いから	建設費が安いから	アフターサービスが良いから	知り合いがいる、または自分に関係しているから	人柄が信頼できそうだから	細かな要望にも応えてくれるから	その他
631	264	176	58	83	188	87	52	132	20
100.0	41.8	27.9	9.2	13.2	29.8	13.8	8.2	20.9	3.2

【問14】 前回調査との比較【12ページ】参照

問15_ 住宅を新築・購入するとしたら、どのような点を特に重視しますか。次の中から5つ以内で選んでください。

全体	地震・台風・水害などに対する強さ	耐久性(長寿命化)	給排水管等設備の維持管理のしやすさ	断熱性能(夏・冬の快適性、ヒートショック防止)	日照、採光、通風のよさ	地域材の活用(建築用材、薪ストーブ等)	誰もが使いやすい構造や設備(バリアフリー等)	防犯性
1000	675	530	231	574	524	32	217	138
100.0	67.5	53.0	23.1	57.4	52.4	3.2	21.7	13.8

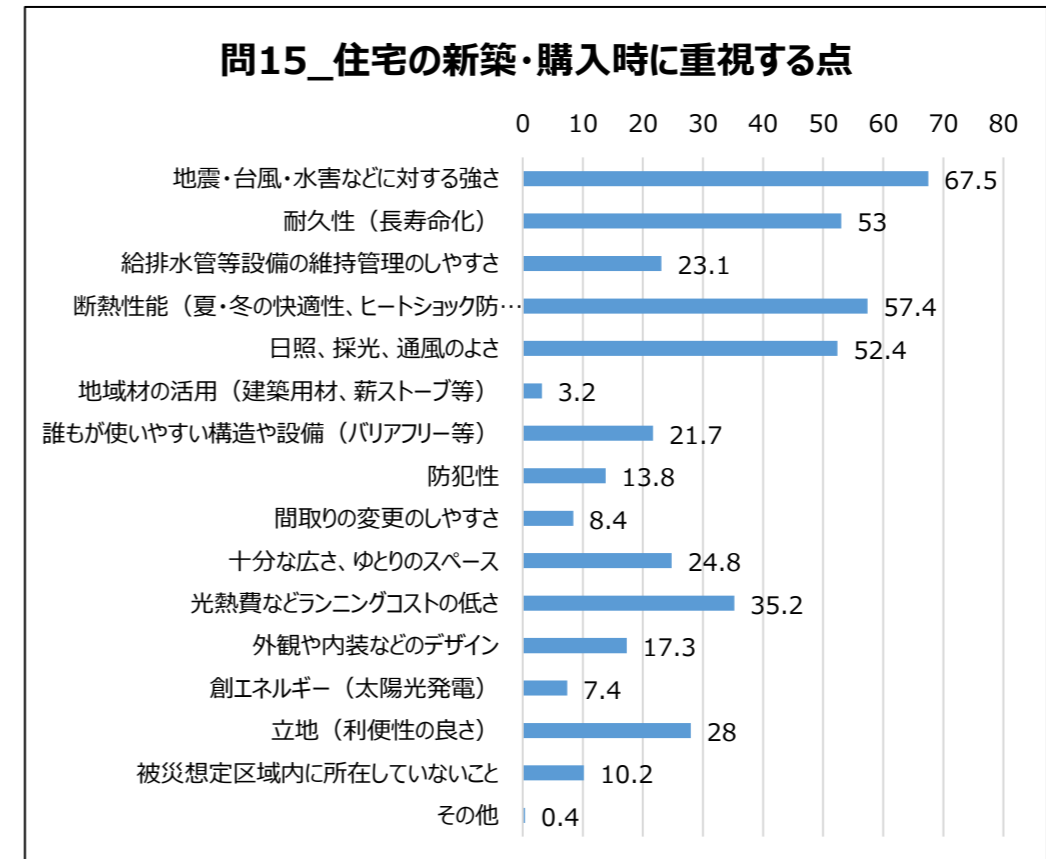
間取りの変更のしやすさ	十分な広さ、ゆとりのスペース	光熱費などランニングコストの低さ	外観や内装などのデザイン	創エネルギー(太陽光発電)	立地(利便性の良さ)	被災想定区域内に所在していないこと	その他
84	248	352	173	74	280	102	4
8.4	24.8	35.2	17.3	7.4	28.0	10.2	0.4

問16_ 自宅の周辺環境で不満と感じていることはありますか。該当するものを次の中から5つ以内で選んでください。

全体	火災・地震・水害などに対する安全性	まわりの道路の歩行時の安全性	騒音、振動、空気・水の汚れ	通勤・通学などの利便性	日常の買い物、医療・福祉施設などの利便性	大型商業施設、娯楽施設の充実	公共交通機関の利便性
1000	225	180	158	161	215	175	264
100.0	22.5	18.0	15.8	16.1	21.5	17.5	26.4

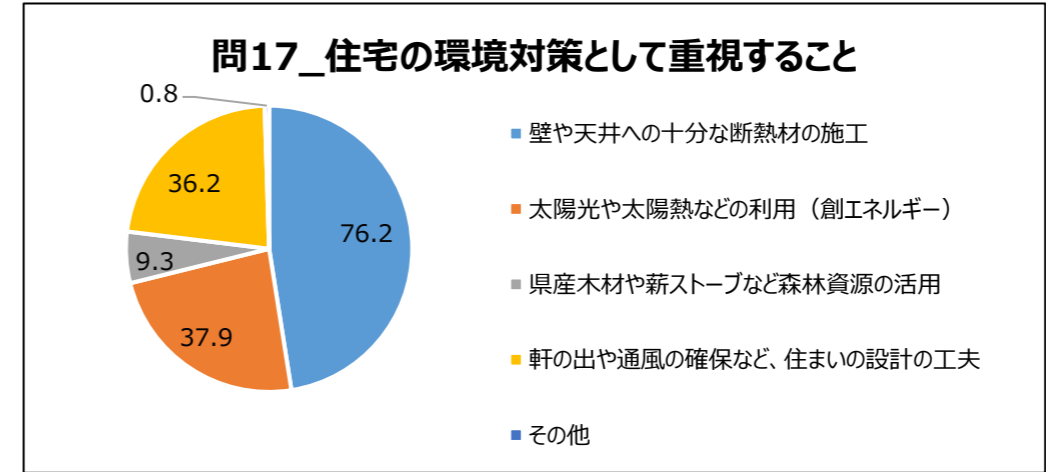
子どもの遊び場・公園などの充実	緑・水辺など自然の豊かさ	日当たり、風通しなど空間のゆとり	まちなみの景観	近隣の人たちや地域とのつながり	親族(親・子どもなど)の住宅との距離	特になし ※以降、青字は排除制御	その他
104	38	151	39	100	55	286	13
10.4	3.8	15.1	3.9	10.0	5.5	28.6	1.3

【問16】 前回調査との比較【13ページ】参照



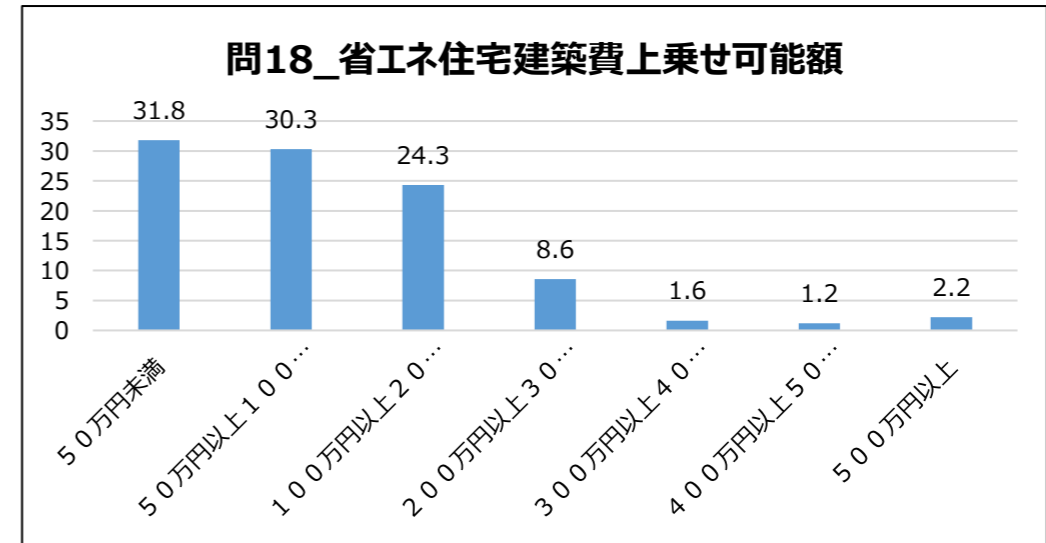
問17_住宅の環境対策として、何を重視しますか。次の中から2つ以内で選んでください。

全体	壁や天井への十分な断熱材の施工	太陽光や太陽熱などの利用（創エネルギー）	県産木材や薪ストーブなど森林資源の活用	軒の出や通風の確保など、住まいの設計の工夫	その他
1000	762	379	93	362	8
100.0	76.2	37.9	9.3	36.2	0.8



問18_住宅の脱炭素化に向け、省エネルギー住宅を建築する際、光熱費等の削減を見越し、いくらまでなら建設費を上乗せできますか。

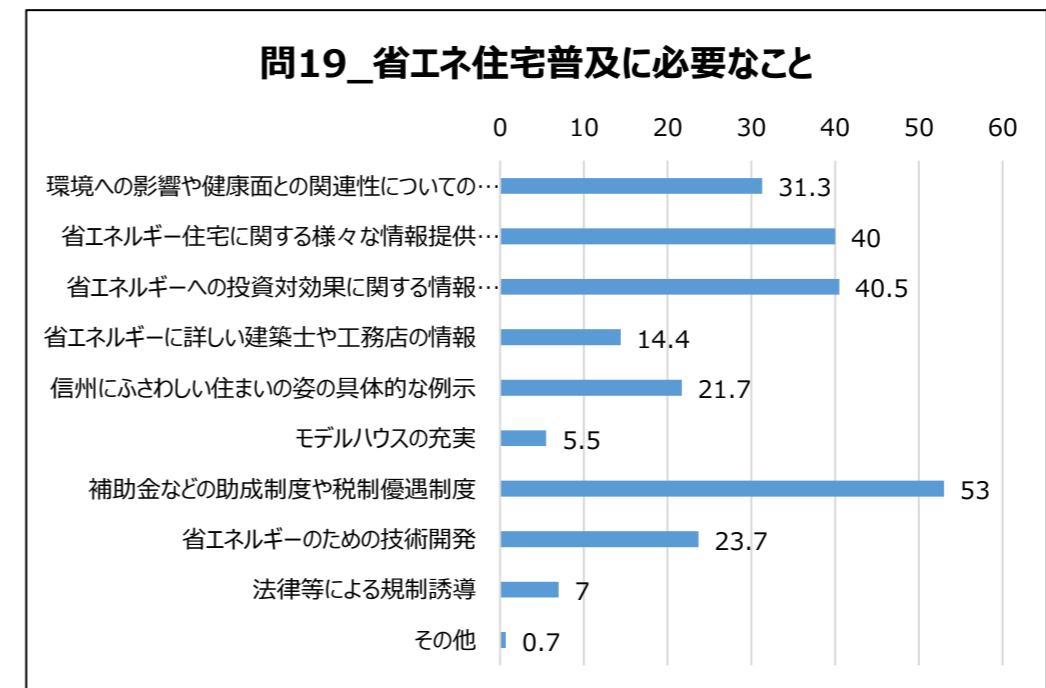
全体	50万円未満	50万円以上100万円未満	100万円以上200万円未満	200万円以上300万円未満	300万円以上400万円未満	400万円以上500万円未満	500万円以上
1000	318	303	243	86	16	12	22
100.0	31.8	30.3	24.3	8.6	1.6	1.2	2.2



問19_省エネルギー住宅を普及させるためには何が必要だと思いますか。次の中から3つ以内で選んで下さい。

全体	環境への影響や健康面との関連性についての理解の浸透	省エネルギー住宅に関する様々な情報提供（材料、設備、工法等）	省エネルギーへの投資対効果に関する情報（コスト比較等）	省エネルギーに詳しい建築士や工務店の情報	信州にふさわしい住まいの姿の具体的な例示	モデルハウスの充実	補助金などの助成制度や税制優遇制度	省エネルギーのための技術開発
1000	313	400	405	144	217	55	530	237
100.0	31.3	40.0	40.5	14.4	21.7	5.5	53.0	23.7

法律等による規制誘導	その他
70	7
7.0	0.7



問20_ 仮に現在住んでいる住宅の耐震性が不足した場合、どのような対策をとろうと思いますか。※複数にあてはまる場合は、最もあてはまる対策をお答えください。

全体	全く壊れないように住宅を補強したい	倒壊せず避難ができる程度に住宅を補強したい	特に住宅の補強はしないが、耐震シェルター(耐震ベッド)を設置することで、少なくとも就寝時の安全は確保したい	特に住宅の補強はしないが、本棚・家具などの転倒防止対策は行いたい	現在の住宅の対策をとるのではなく、建替えや別の住宅への住替えをしたい	特に対策をとらない	その他
1000	232	288	52	185	125	113	5
100.0	23.2	28.8	5.2	18.5	12.5	11.3	0.5

【問20】 前回調査との比較[【13ページ】](#)参照

問21_ (問20で3から5を選んだ方におたずねします。) その主な理由を選んでください。

全体	資金に余裕がないから	どの業者に依頼すればよいか分からないから	居住性や使い勝手が悪くなりそうだから	住み続けながらの工事は大変そうだから	自分が住んでいる間には、大地震は来ないと思うから	住宅の後継者がおらず、お金をかける気がないから	借家だから	その他
362	138	9	27	61	16	39	60	12
100.0	38.1	2.5	7.5	16.9	4.4	10.8	16.6	3.3

【問21】 前回調査との比較[【13ページ】](#)参照

問22_ 高齢者になったとき(現在高齢者の方も含まれます。)のことを考えて、現在住んでいる住宅及びその地域について不安に感じることはありますか。次の中から2つ以内を選んでください。

全体	住居費(改修費や家賃など)の負担	災害時の安全性	手すりがない、段差があるなど、バリアフリー化されていないこと	病院や福祉施設などが近くにないこと	商店が近くにないこと	まわりの道路の歩行時の安全性	親族が近くにいないこと	公共交通機関が不便なこと
1000	312	217	204	135	162	43	90	253
100.0	31.2	21.7	20.4	13.5	16.2	4.3	9.0	25.3

【問22】 前回調査との比較[【14ページ】](#)参照

近隣や地域とのつながり	特にない	その他
36	144	5
3.6	14.4	0.5

問23_ 高齢者になったとき(現在高齢者の方も含まれます。)、誰と一緒に住む予定ですか。

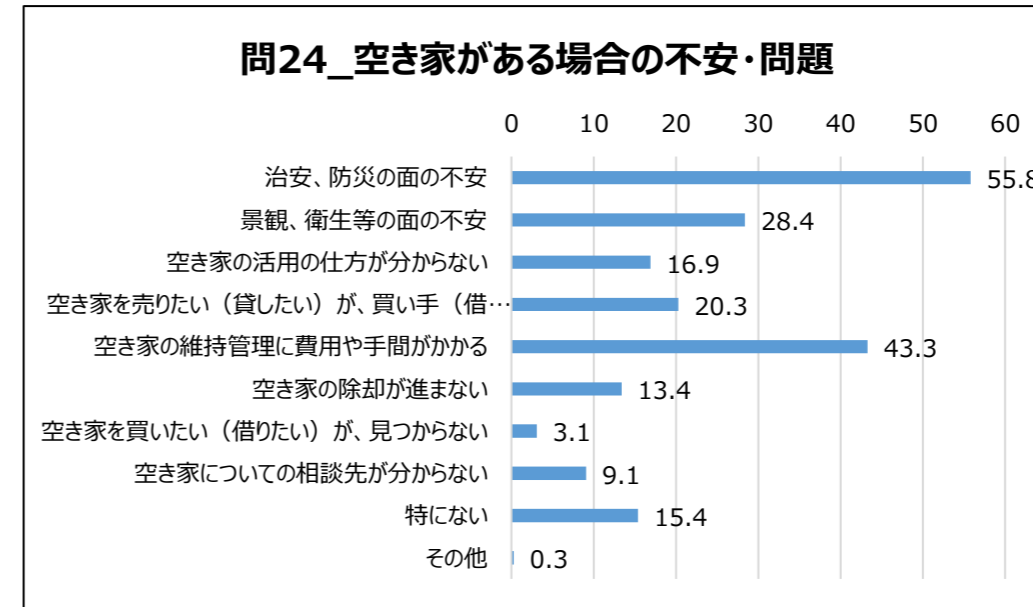
全体	単身または夫婦だけで住む	子どもなど親族と一緒に住む	親族の近くで単身または夫婦だけで住む	知人や友人と一緒に住む	その他
1000	724	178	67	11	20
100.0	72.4	17.8	6.7	1.1	2.0

【問23】 前回調査との比較[【14ページ】](#)参照

問24_ 空き家がある場合に生じる不安や問題等は何ですか。次の中から3つ以内で選んでください。(空き家を所有していない方は空き家を所有していると仮定して回答ください。)

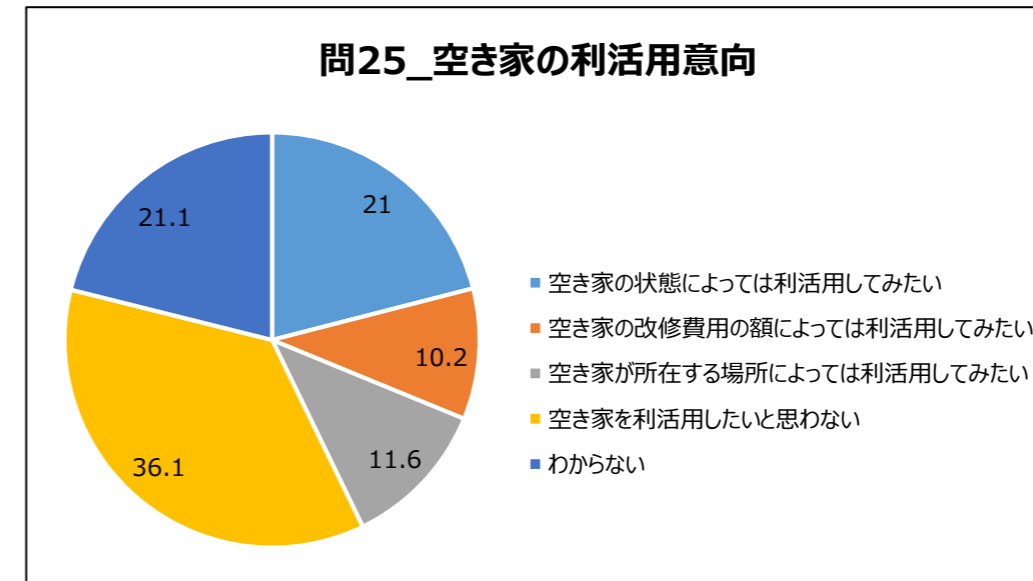
全体	治安、防災の面の不安	景観、衛生等の面の不安	空き家の活用の仕方が分からない	空き家を売りたい(貸したい)が、買い手(借り手)が見つからない	空き家の維持管理に費用や手間がかかる	空き家の除却が進まない	空き家を買いたい(借りたい)が、見つからない
1000	558	284	169	203	433	134	31
100.0	55.8	28.4	16.9	20.3	43.3	13.4	3.1

空き家についての相談先が分からない	特になし	その他
91	154	3
9.1	15.4	0.3



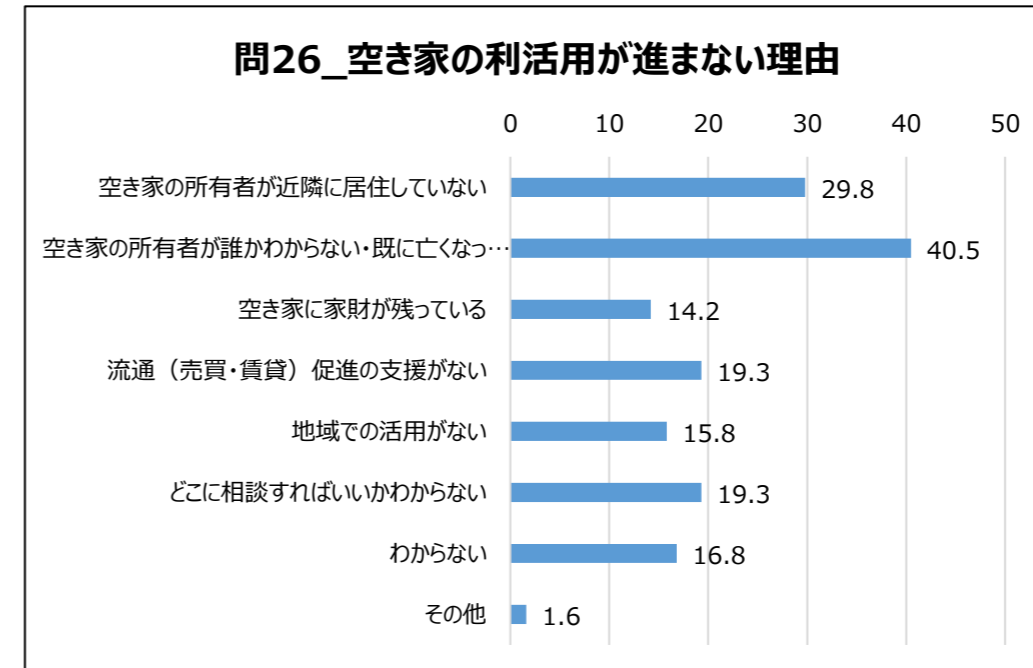
問25_ あなたは空き家を利活用してみたいと思いますか。

全体	空き家の状態によっては利活用してみたい	空き家の改修費用の額によっては利活用してみたい	空き家が所在する場所によっては利活用してみたい	空き家を利活用したいと思わない	わからない
1000	210	102	116	361	211
100.0	21.0	10.2	11.6	36.1	21.1



問26_ 空き家の利活用や除却が進まない理由はどこにあると考えますか。次の中から2つ以内で選んでください。

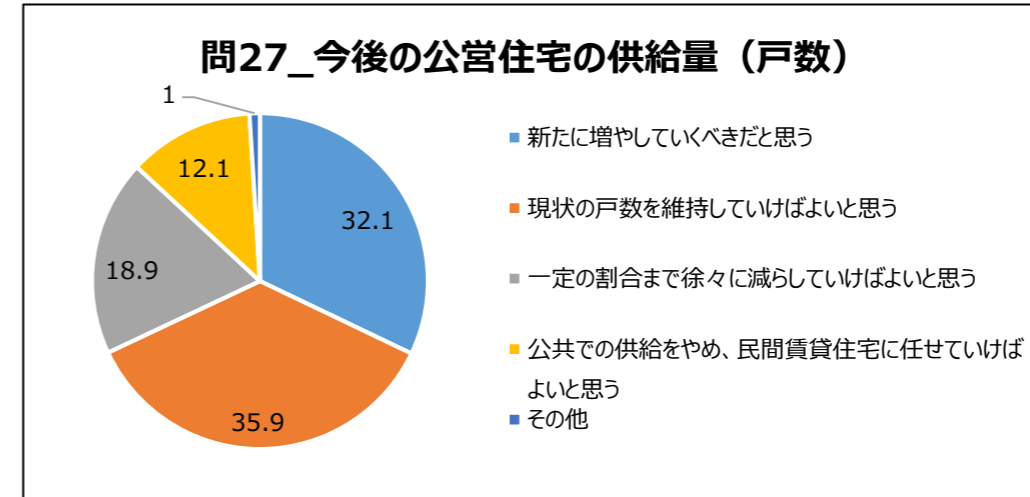
全体	空き家の所有者が近隣に居住していない	空き家の所有者が誰かわからない・既に亡くなっている	空き家に家財が残っている	流通(売買・賃貸)促進の支援がない	地域での活用がない	どこに相談すればいいかわからない	わからない	その他
1000	298	405	142	193	158	193	168	16
100.0	29.8	40.5	14.2	19.3	15.8	19.3	16.8	1.6



問27_ 公営住宅は、住宅にお困りで一定の収入以下の方に、低廉な家賃で住宅を賃貸することを目的としており、住宅のセーフティネットの役割を大きく担っているところです。

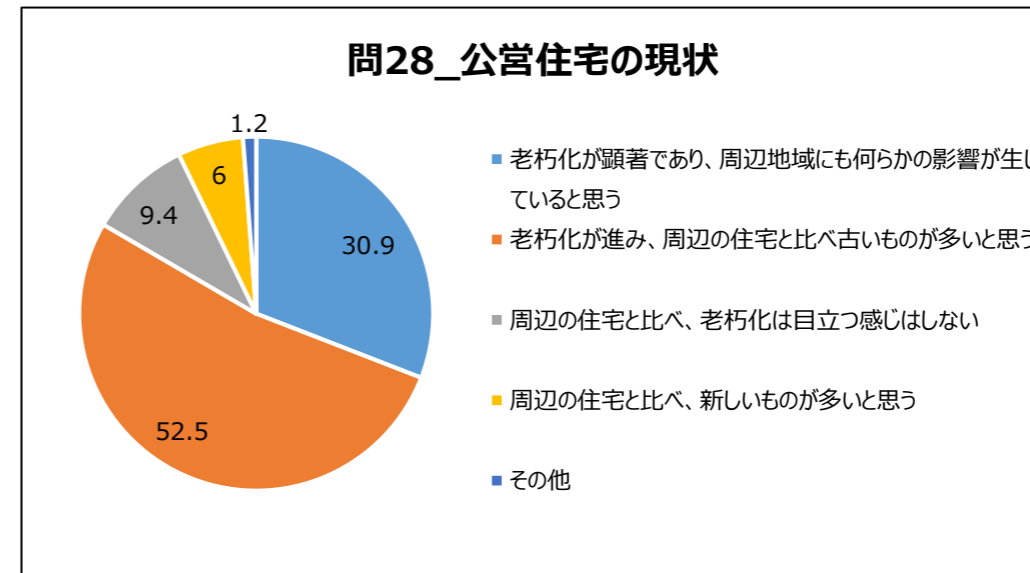
あなたは、このような現状の中、今後の公営住宅の供給量（戸数）をどのようにしたらよいと思いますか。

全体	新たに増やしていくべきだと思う	現状の戸数を維持していけばよいと思う	一定の割合まで徐々に減らしていけばよいと思う	公共での供給をやめ、民間賃貸住宅に任せていけばよいと思う	その他
1000	321	359	189	121	10
100.0	32.1	35.9	18.9	12.1	1.0



問28_ 公営住宅は、昭和30年～昭和40年代に建設された住宅が数多くあります。あなたは、公営住宅の現状をどのように感じますか。

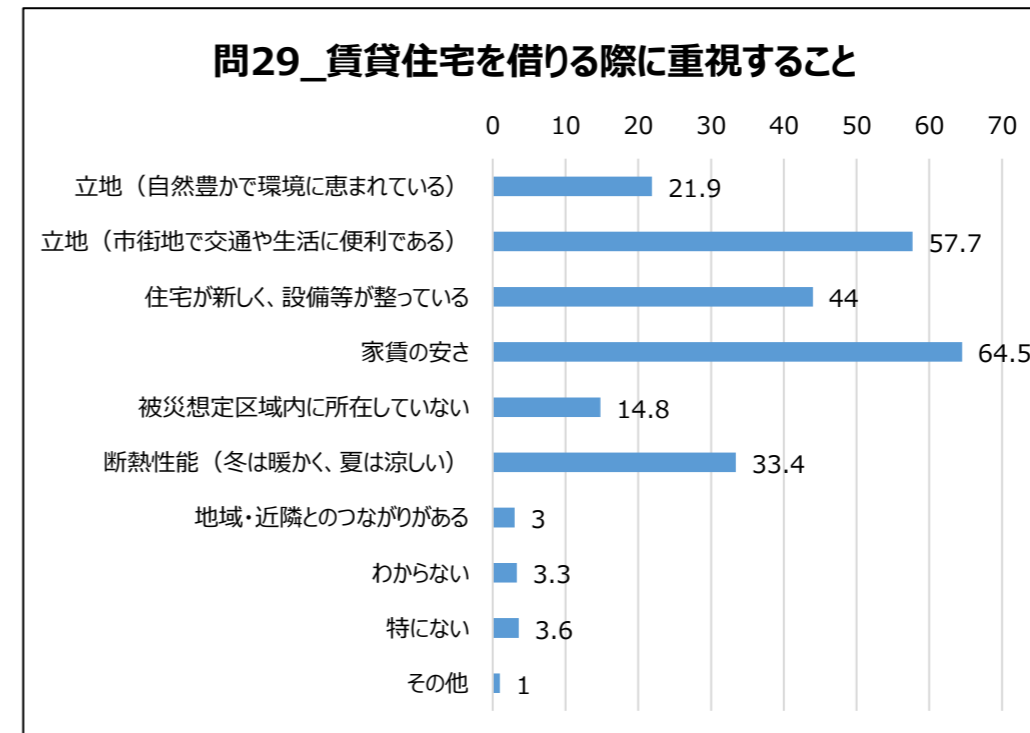
全体	老朽化が顕著であり、周辺地域にも何らかの影響が生じていると思う	老朽化が進み、周辺の住宅と比べ古いものが多いと思う	周辺の住宅と比べ、老朽化は目立つ感じはしない	周辺の住宅と比べ、新しいものが多いと思う	その他
1000	309	525	94	60	12
100.0	30.9	52.5	9.4	6.0	1.2



問29_ 賃貸住宅を借りる場合に、何を重視しますか。次の中から3つ以内で選んでください。

全体	立地（自然豊かで環境に恵まれている）	立地（市街地で交通や生活に便利である）	住宅が新しく、設備等が整っている	家賃の安さ	被災想定区域内に所在していない	断熱性能（冬は暖かく、夏は涼しい）	地域・近隣とのつながりがある
1000	219	577	440	645	148	334	30
100.0	21.9	57.7	44.0	64.5	14.8	33.4	3.0

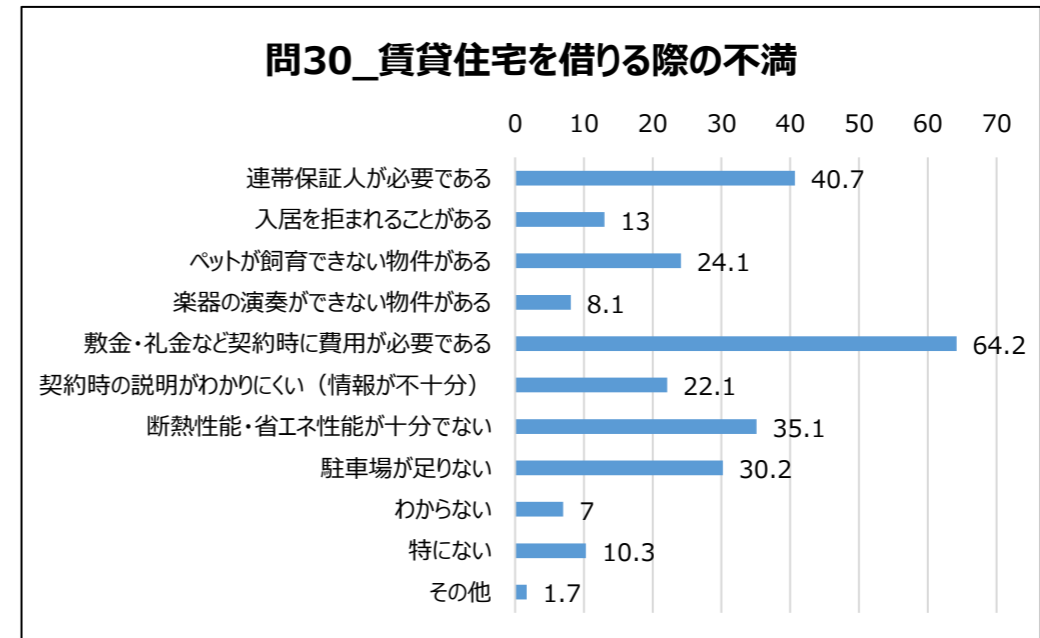
わからない	特になし	その他
33	36	10
3.3	3.6	1.0



問30_ 賃貸住宅を借りる際に感じる不満は何ですか。次の中から5つ以内で選んでください。（住宅を借りた経験のない方は、想像できる範囲で回答ください。）

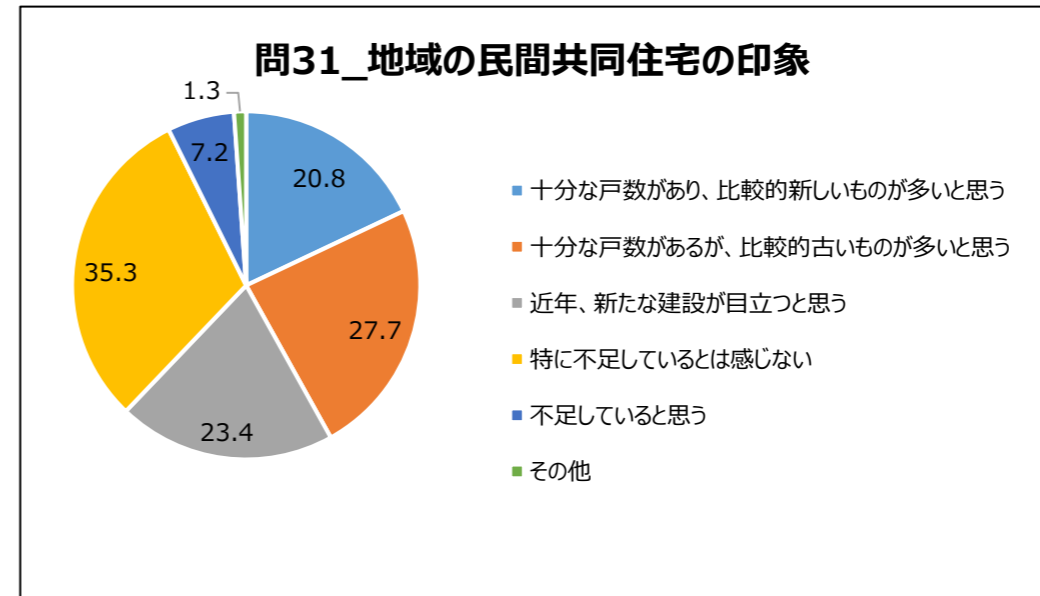
全体	連帯保証人 が必要である	入居を拒まれ ることがある	ペットが飼育で きない物件が ある	楽器の演奏が できない物件 がある	敷金・礼金な ど契約時に費 用が必要であ る	契約時の説 明がわかりにく い（情報が不 十分）	断熱性能・省 エネ性能が十 分でない
1000	407	130	241	81	642	221	351
100.0	40.7	13.0	24.1	8.1	64.2	22.1	35.1

駐車場が足り ない	わからない	特にない	その他
302	70	103	17
30.2	7.0	10.3	1.7



問31_ 地域の民間賃貸共同住宅（アパート・マンション等）について、どのように感じていますか。次の中から2つ以内で選んでください。

全体	十分な戸数が あり、比較的 新しいものが 多いと思う	十分な戸数が あるが、比較 的古いものが 多いと思う	近年、新たな 建設が目立つ と思う	特に不足して いるとは感じな い	不足している と思う	その他
1000	208	277	234	353	72	13
100.0	20.8	27.7	23.4	35.3	7.2	1.3



問32_ 現在住んでいる地区のまちなみ景観について、どのような印象をお持ちですか。

全体	大変良い	まあ良い	どちらとも言 えない	あまり良くない	良くない
1000	75	476	346	84	19
100.0	7.5	47.6	34.6	8.4	1.9

【問32】 前回調査との比較 [\[15ページ\]](#) 参照

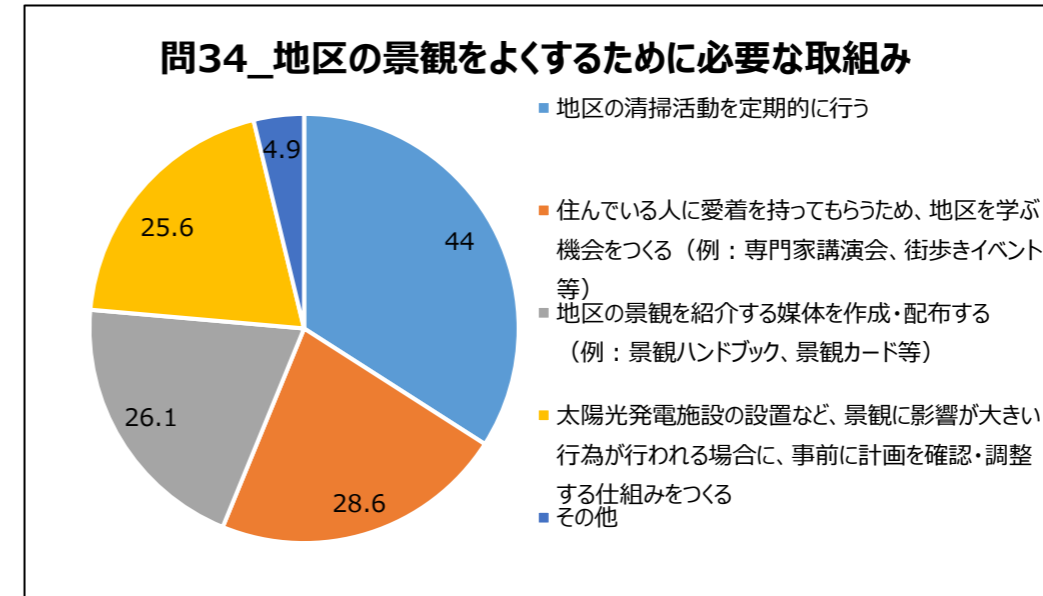
問33_ （問32で4または5を選んだ方におたずねします。）その主な理由を次の中から2つ以内で選んでください。

全体	周囲の景観に 調和していな い建物や工作 物があるから （外壁の色、 形など）	電柱、電線が 気になるから	看板、広告塔 が乱立してい るから	ポスターなどが 氾濫している から	塀、垣根など に緑が少ない から	街路樹などが 少ないから	自動販売機 が目立つから	老朽建物や 空き家がある から	積極的な景 観育成の取 組がなく、殺 風景だから	その他
103	27	28	3	1	4	7	1	40	38	11
100.0	26.2	27.2	2.9	1.0	3.9	6.8	1.0	38.8	36.9	10.7

【問33】 前回調査との比較 [\[15ページ\]](#) 参照

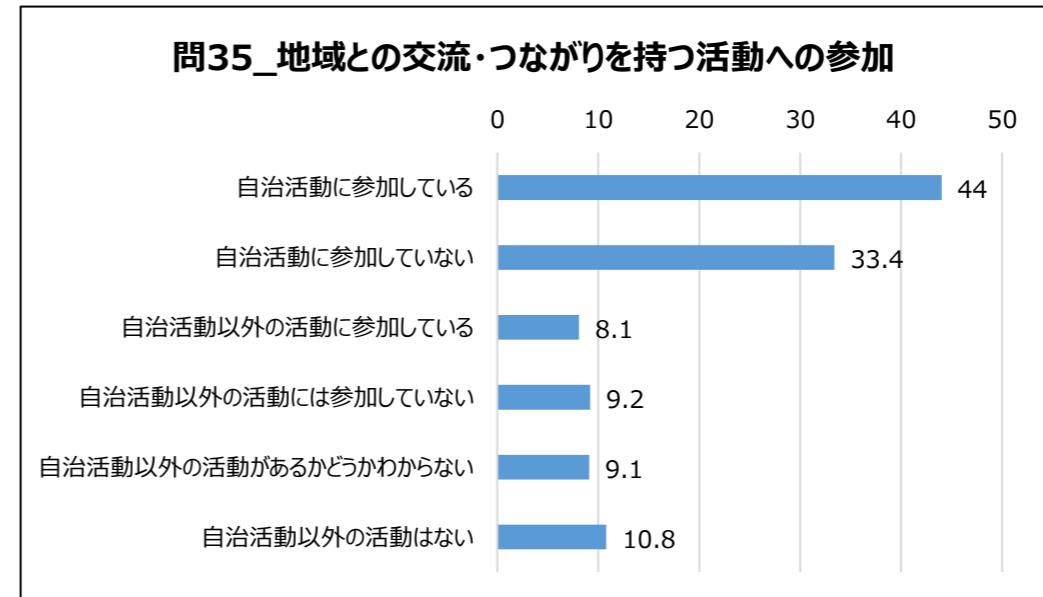
問34_住んでいる地区の景観をよくするために、どのような取組みが必要だと思いますか。あなたの考えに近いものをすべて選んでください。

全体	地区の清掃活動を定期的に行う	住んでいる人に愛着を持ってもらうため、地区を学ぶ機会をつくる（例：専門家講演会、街歩きイベント等）	地区の景観を紹介する媒体を作成・配布する（例：景観ハンドブック、景観カード等）	太陽光発電施設の設置など、景観に影響が大きい行為が行われる場合に、事前に計画を確認・調整する仕組みをつくる	その他
1000	440	286	261	256	49
100.0	44.0	28.6	26.1	25.6	4.9



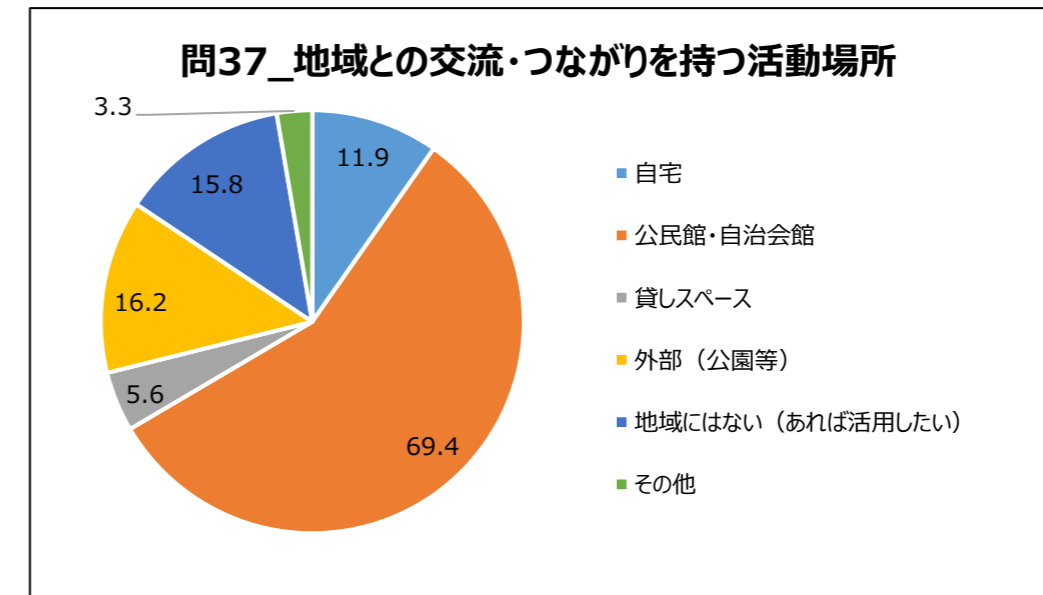
問35_地域の自治活動を含め、友人や近隣住民等、地域との交流・つながりを持つ活動に参加していますか。次の中から2つ以内で選んでください。

全体	自治活動に参加している	自治活動に参加していない	自治活動以外の活動に参加している	自治活動以外の活動には参加していない	自治活動以外の活動があるかどうかわからない	自治活動以外の活動はない
1000	440	334	81	92	91	108
100.0	44.0	33.4	8.1	9.2	9.1	10.8



問37_近隣住民や地域との交流・つながりを持つ活動をするための場所はどこですか。

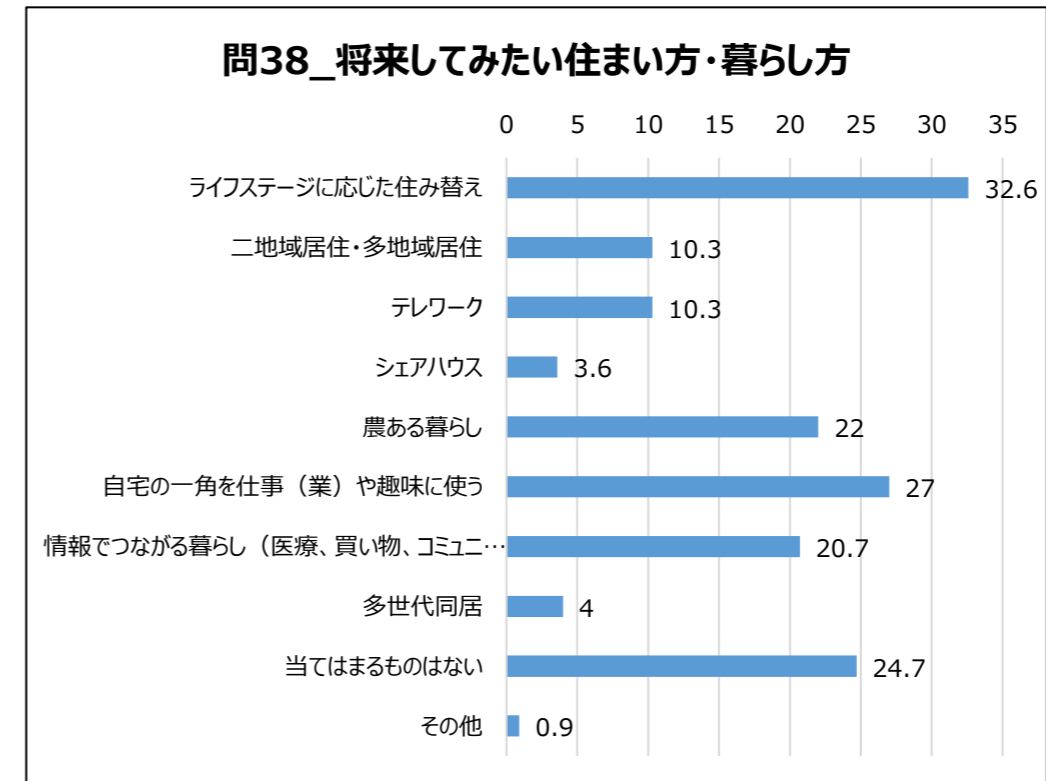
全体	自宅	公民館・自治会館	貸しスペース	外部（公園等）	地域にはない（あれば活用したい）	その他
1000	119	694	56	162	158	33
100.0	11.9	69.4	5.6	16.2	15.8	3.3



問38_ あなたが将来してみたい住まい方・暮らし方について当てはまるものはありますか。次の中から3つ以内で選んでください。

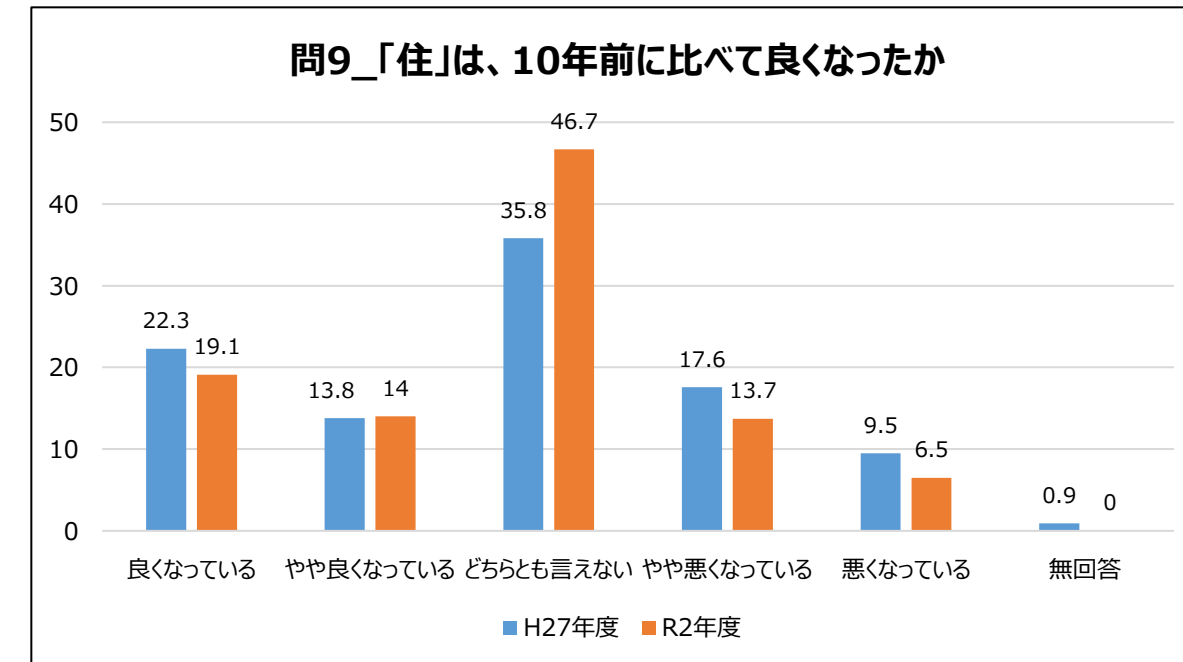
全体	ライフステージに応じた住み替え	二地域居住・多地域居住	テレワーク	シェアハウス	農ある暮らし	自宅の一角を仕事（業）や趣味に使う	情報でつながる暮らし（医療、買い物、コミュニティ等）
1000	326	103	103	36	220	270	207
100.0	32.6	10.3	10.3	3.6	22.0	27.0	20.7

多世代同居	当てはまるものはない	その他
40	247	9
4.0	24.7	0.9



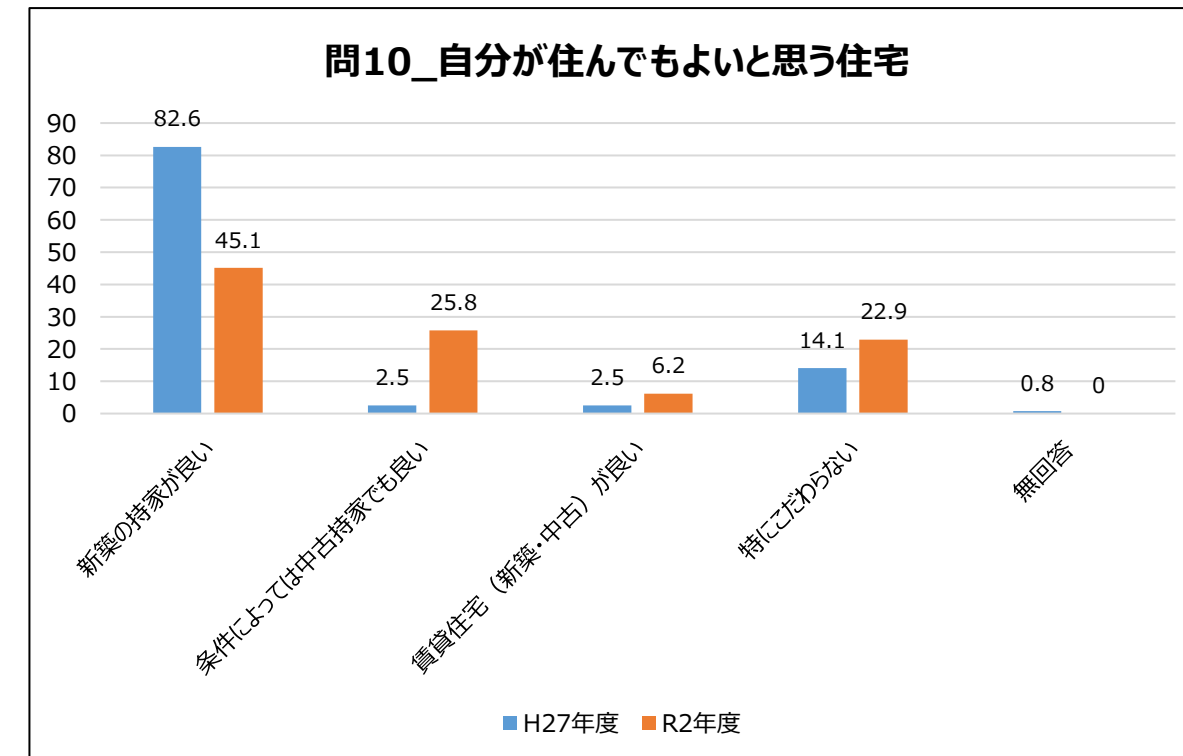
問9_「衣」「食」「住」のうち、「住」は、10年前に比べて良くなったか

	H27年度		R2年度	
	件数	割合	件数	割合
全体	986	100.0	1000	100.0
良くなっている	220	22.3	191	19.1
やや良くなっている	136	13.8	140	14.0
どちらとも言えない	353	35.8	467	46.7
やや悪くなっている	174	17.6	137	13.7
悪くなっている	94	9.5	65	6.5
無回答	9	0.9	-	-



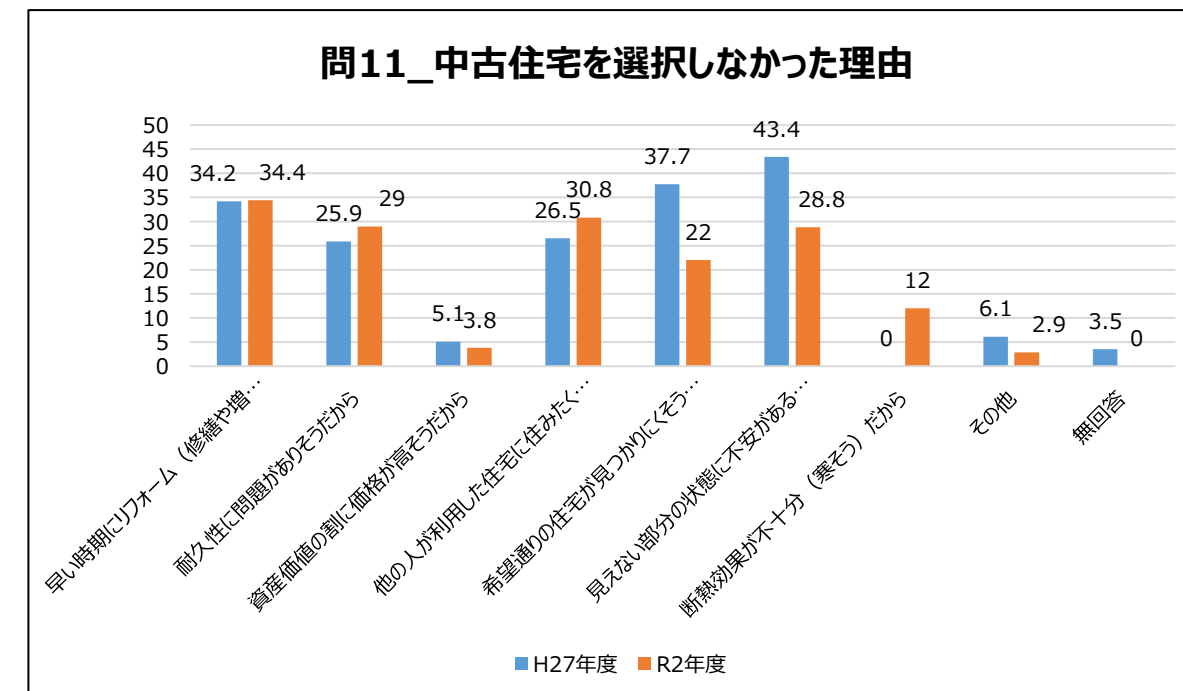
問10_自分が住んでもよいと思う住宅

	H27年度		R2年度	
	件数	割合	件数	割合
全体	986	100.0	1000	100.0
新築の持家が良い	814	82.6	451	45.1
条件によっては中古持家でも良い	25	2.5	258	25.8
賃貸住宅（新築・中古）が良い	25	2.5	62	6.2
特にこだわらない	139	14.1	229	22.9
無回答	8	0.8	-	-



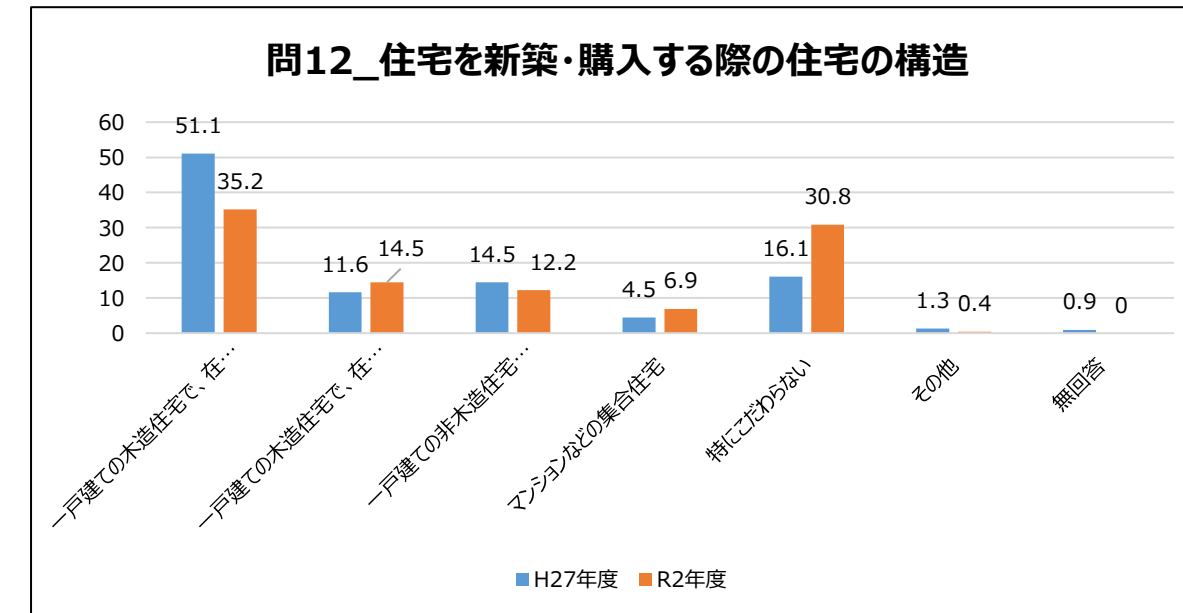
問11_（前問で）中古住宅を選択しなかった理由（2つまで選択可）

	H27年度		R2年度	
	件数	割合	件数	割合
全体	916	100.0	451	100.0
早い時期にリフォーム（修繕や増改築など）が必要となりそうだから	313	34.2	155	34.4
耐久性に問題がありそうだから	237	25.9	131	29.0
資産価値の割に価格が高そうだから	47	5.1	17	3.8
他の人が利用した住宅に住みたくないから	243	26.5	139	30.8
希望通りの住宅が見つかりにくそうだから	345	37.7	99	22.0
見えない部分の状態に不安があるから	398	43.4	130	28.8
断熱効果が不十分（寒そう）だから	-	-	54	12.0
その他	56	6.1	13	2.9
無回答	32	3.5	-	-



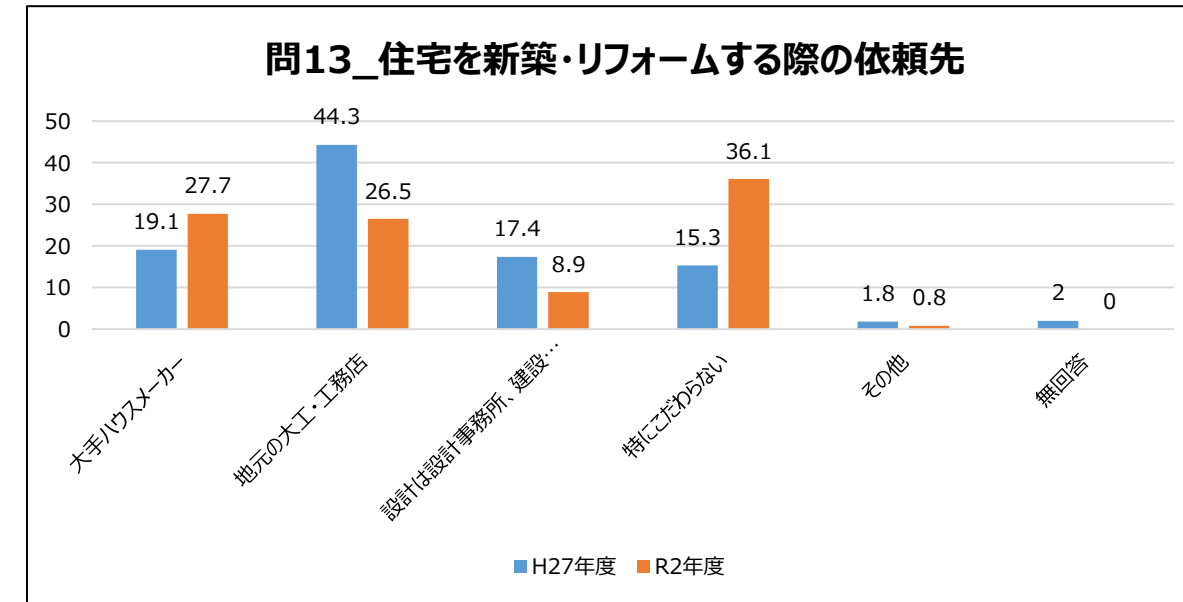
問12_ 住宅を新築・購入する際の住宅の構造

	H27年度		R2年度	
	件数	割合	件数	割合
全体	986	100.0	1000	100.0
一戸建ての木造住宅で、在来工法のもの	504	51.1	352	35.2
一戸建ての木造住宅で、在来工法以外のもの（プレハブ工法、枠組壁工法（2×4）など）	114	11.6	145	14.5
一戸建ての非木造住宅（鉄骨造や鉄筋コンクリート造の住宅）	143	14.5	122	12.2
マンションなどの集合住宅	44	4.5	69	6.9
特にこだわらない	159	16.1	308	30.8
その他	13	1.3	4	0.4
無回答	9	0.9	-	-



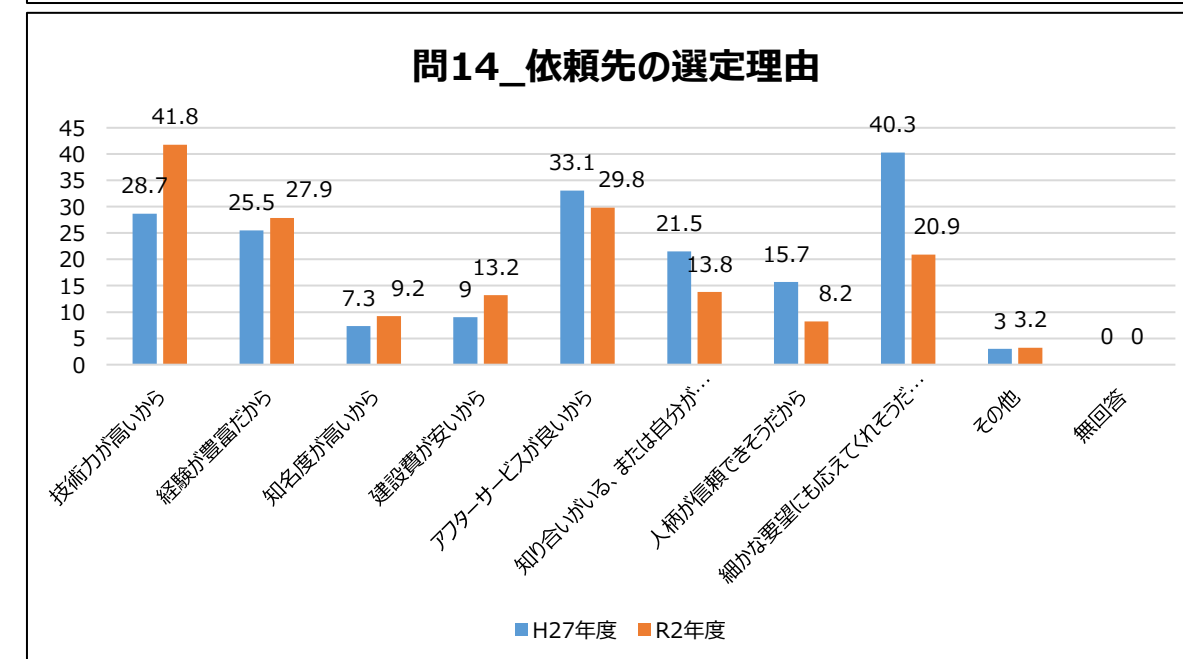
問13_ 住宅を新築・リフォームする際の依頼先

	H27年度		R2年度	
	件数	割合	件数	割合
全体	986	100.0	1000	100.0
大手ハウスメーカー	188	19.1	277	27.7
地元の大工・工務店	437	44.3	265	26.5
設計は設計事務所、建設は大工・工務店	172	17.4	89	8.9
特にこだわらない	151	15.3	361	36.1
その他	18	1.8	8	0.8
無回答	20	2.0	-	-



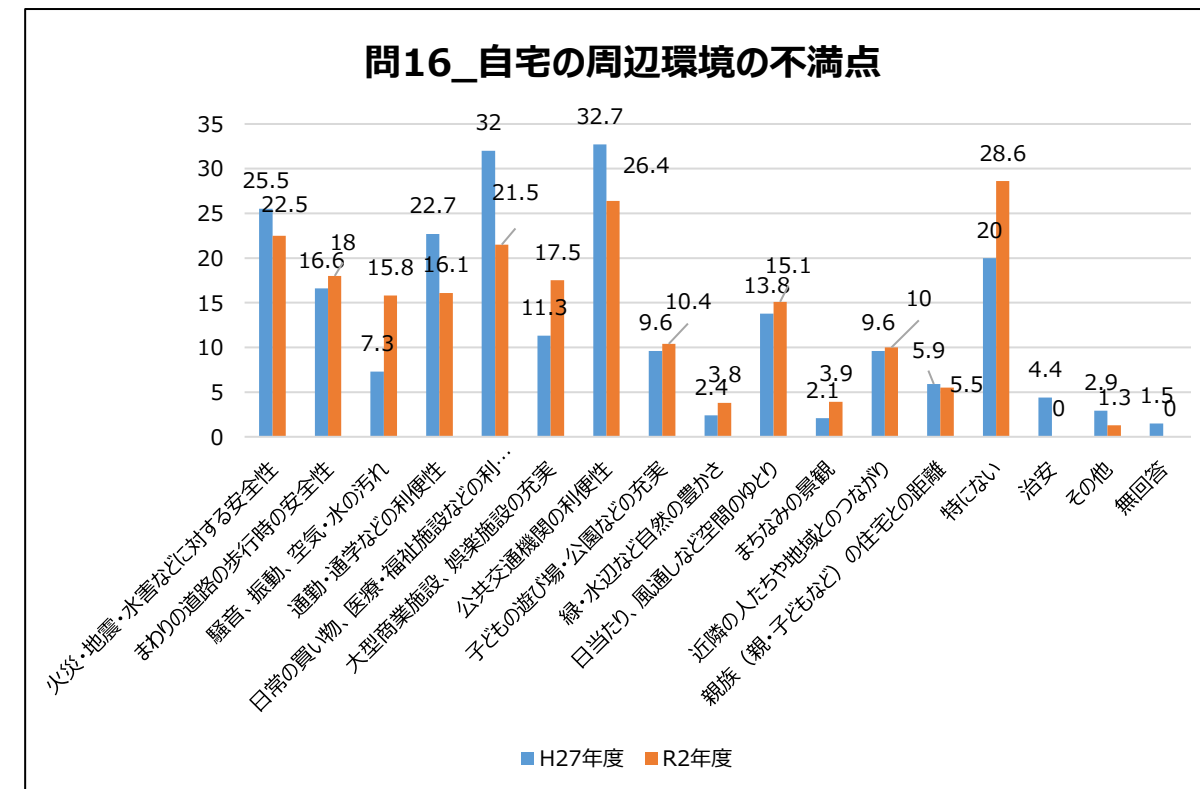
問14_ 依頼先選定理由(2つまで選択可)

	H27年度		R2年度	
	件数	割合	件数	割合
全体	797	100.0	631	100.0
技術力が高いから	229	28.7	264	41.8
経験が豊富だから	203	25.5	176	27.9
知名度が高いから	58	7.3	58	9.2
建設費が安いから	72	9.0	83	13.2
アフターサービスが良いから	264	33.1	188	29.8
知り合いがいる、または自分が関係しているから	171	21.5	87	13.8
人柄が信頼できそうだから	125	15.7	52	8.2
細かな要望にも応えてくれそうだから	321	40.3	132	20.9
その他	24	3.0	20	3.2
無回答	0	0.0	-	-



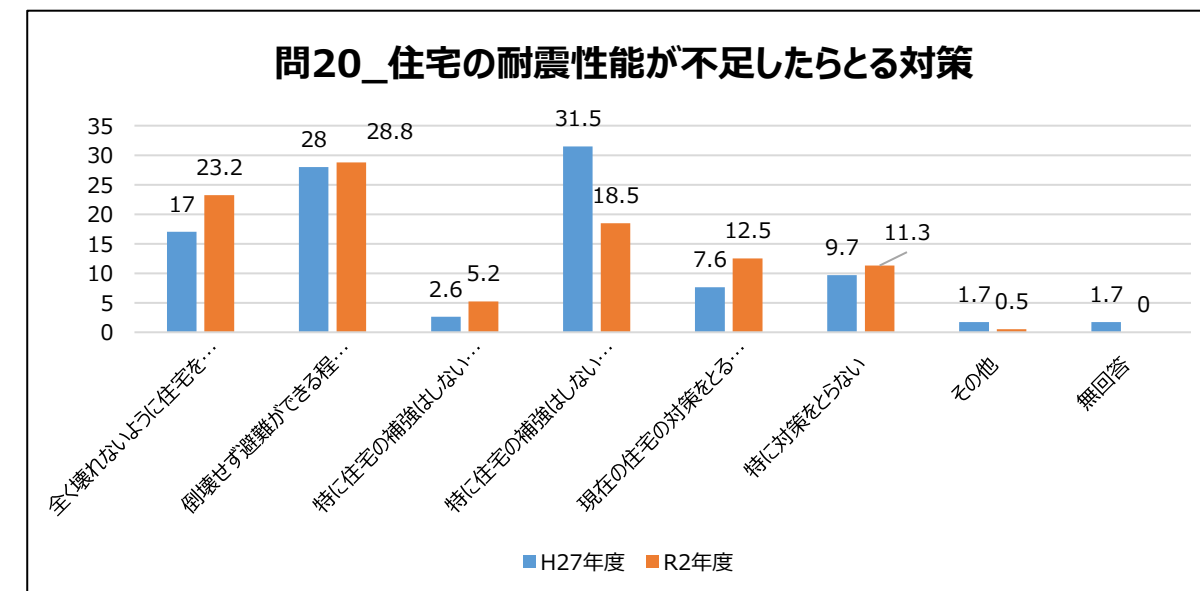
問16_ 自宅の周辺環境の不満点(5つまで選択可) ※H27年度は3つまで選択可

	H27年度		R2年度	
	件数	割合	件数	割合
全体	986	100.0	1000	100.0
火災・地震・水害などに対する安全性	251	25.5	225	22.5
まわりの道路の歩行時の安全性	164	16.6	180	18.0
騒音、振動、空気・水の汚れ	72	7.3	158	15.8
通勤・通学などの利便性	224	22.7	161	16.1
日常の買い物、医療・福祉施設などの利便性	316	32.0	215	21.5
大型商業施設、娯楽施設の充実	111	11.3	175	17.5
公共交通機関の利便性	322	32.7	264	26.4
子どもの遊び場・公園などの充実	95	9.6	104	10.4
緑・水辺など自然の豊かさ	24	2.4	38	3.8
日当たり、風通しなど空間のゆとり	136	13.8	151	15.1
まちなみの景観	21	2.1	39	3.9
近隣の人たちが地域とのつながり	95	9.6	100	10.0
親族（親・子どもなど）の住宅との距離	58	5.9	55	5.5
特になし ※以降、青字は排他制御	197	20.0	286	28.6
治安	43	4.4	-	-
その他	29	2.9	13	1.3
無回答	15	1.5	-	-



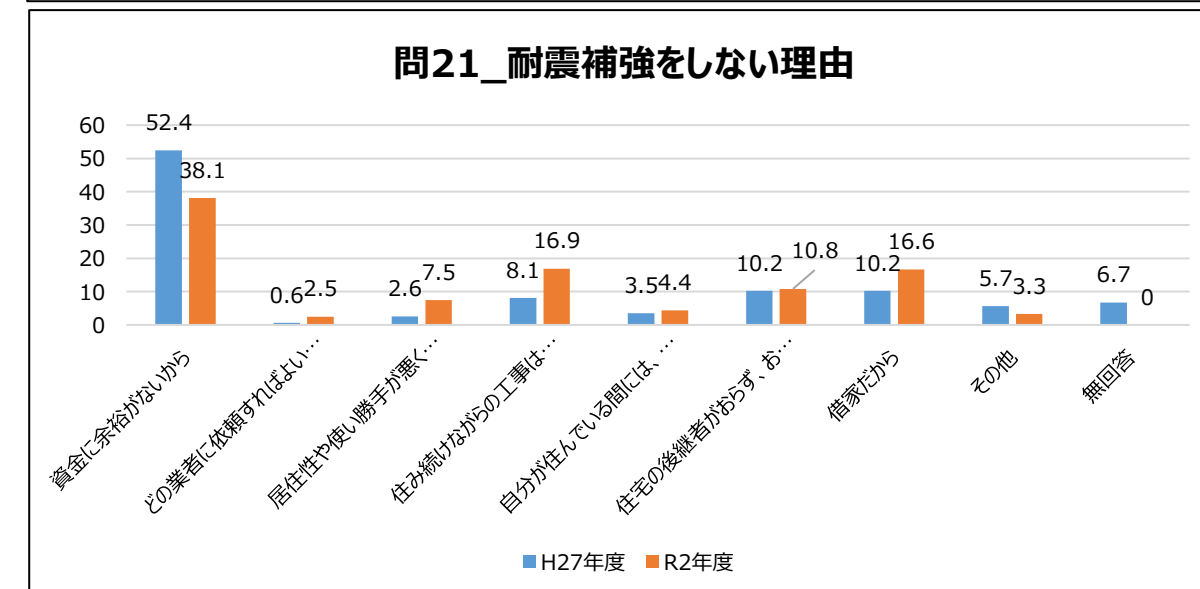
問20_ 仮に住宅の耐震性が不足したら、とる対策

	H27年度		R2年度	
	件数	割合	件数	割合
全体	986	100.0	1000	100.0
全く壊れないように住宅を補強したい	168	17.0	232	23.2
倒壊せず避難ができる程度に住宅を補強したい	276	28.0	288	28.8
特に住宅の補強はしないが、耐震シェルター（耐震ベッド）を設置することで、少なくとも就寝時の安全は確保したい	26	2.6	52	5.2
特に住宅の補強はしないが、本棚・家具などの転倒防止対策は行いたい	311	31.5	185	18.5
現在の住宅の対策をとるのではなく、建替えや別の住宅への住替えをしたい	75	7.6	125	12.5
特に対策をとらない	96	9.7	113	11.3
その他	17	1.7	5	0.5
無回答	17	1.7	-	-



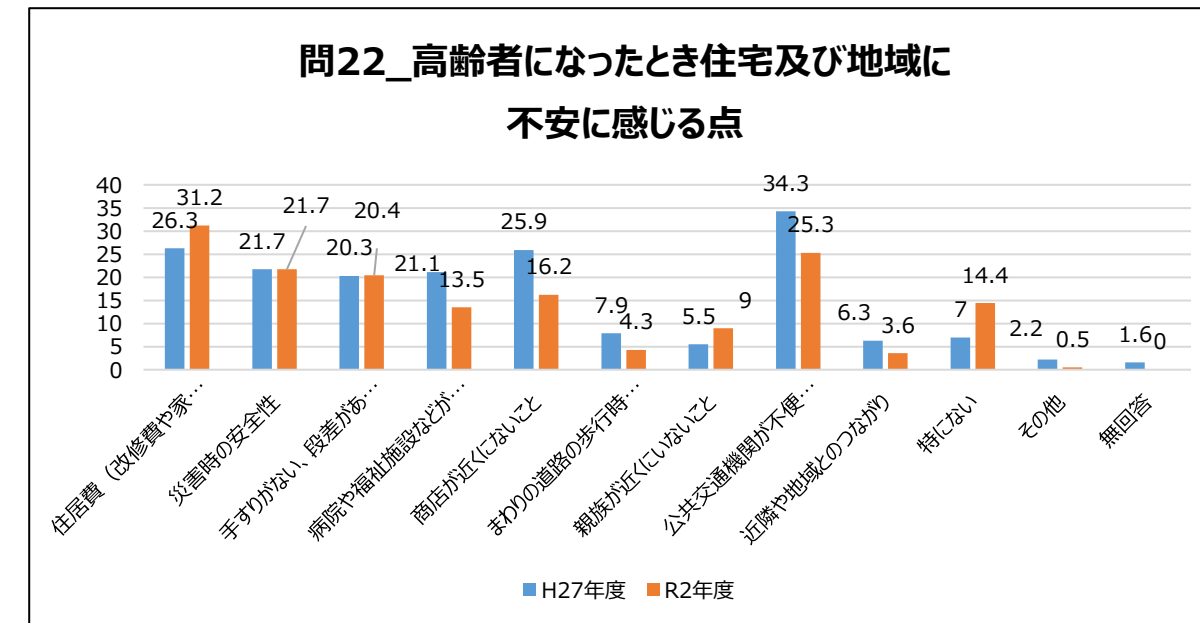
問21_ 耐震補強をしない理由

	H27年度		R2年度	
	件数	割合	件数	割合
全体	508	100.0	362	100.0
資金に余裕がないから	266	52.4	138	38.1
どの業者に依頼すればよいか分からないから	3	0.6	9	2.5
居住性や使い勝手が悪くなりそうだから	13	2.6	27	7.5
住み続けながらの工事は大変そうだから	41	8.1	61	16.9
自分が住んでいる間には、大地震は来ないと思うから	18	3.5	16	4.4
住宅の後継者がおらず、お金をかける気がないから	52	10.2	39	10.8
借家だから	52	10.2	60	16.6
その他	29	5.7	12	3.3
無回答	34	6.7	-	-



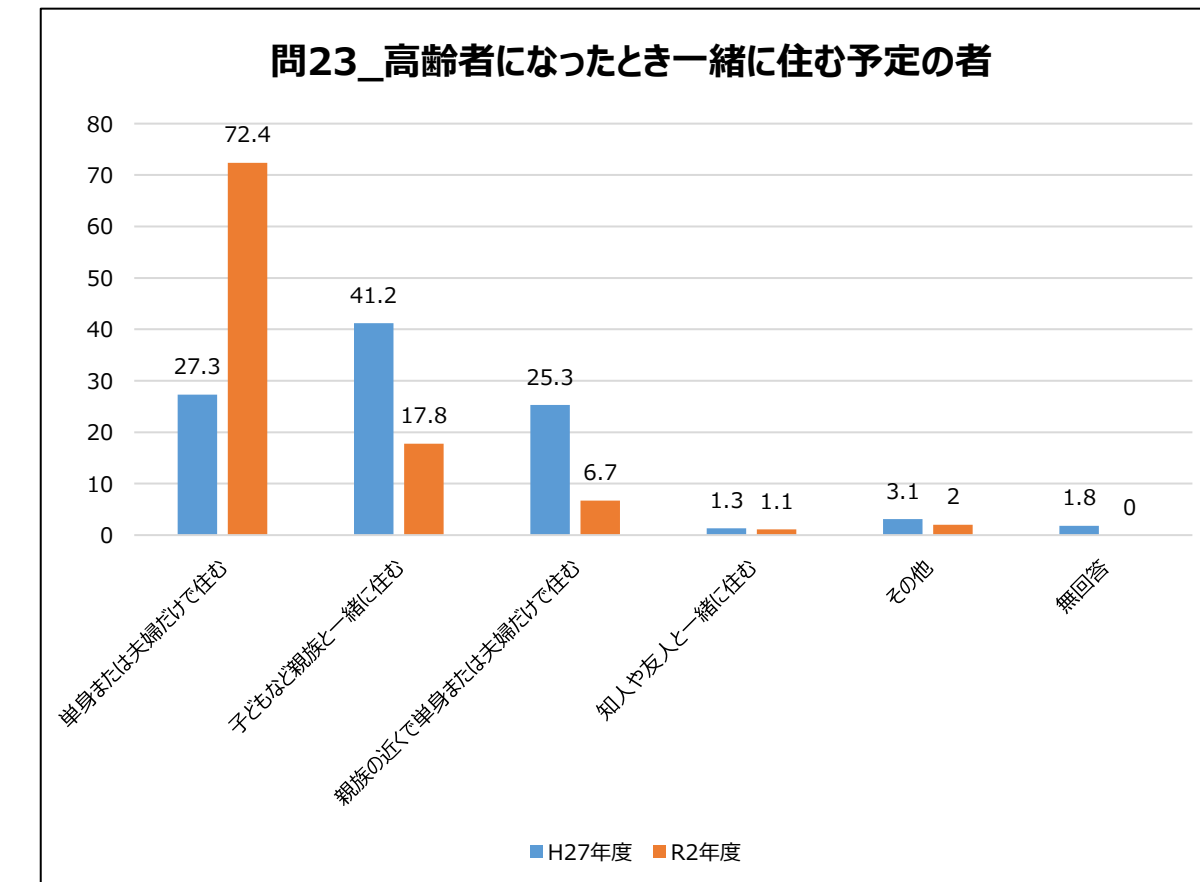
問22_高齢者になったとき、現在住んでいる住宅及びその地域に不安を感じる点(2つまで選択可)

	H27年度		R2年度	
全体	986	100.0	1000	100.0
住居費(改修費や家賃など)の負担	259	26.3	312	31.2
災害時の安全性	214	21.7	217	21.7
手すりがない、段差があるなど、バリアフリー化されていないこと	200	20.3	204	20.4
病院や福祉施設などが近くにないこと	208	21.1	135	13.5
商店が近くにないこと	255	25.9	162	16.2
まわりの道路の歩行時の安全性	78	7.9	43	4.3
親族が近くにいないこと	54	5.5	90	9.0
公共交通機関が不便なこと	338	34.3	253	25.3
近隣や地域とのつながり	62	6.3	36	3.6
特になし	69	7.0	144	14.4
その他	22	2.2	5	0.5
無回答	16	1.6	-	-



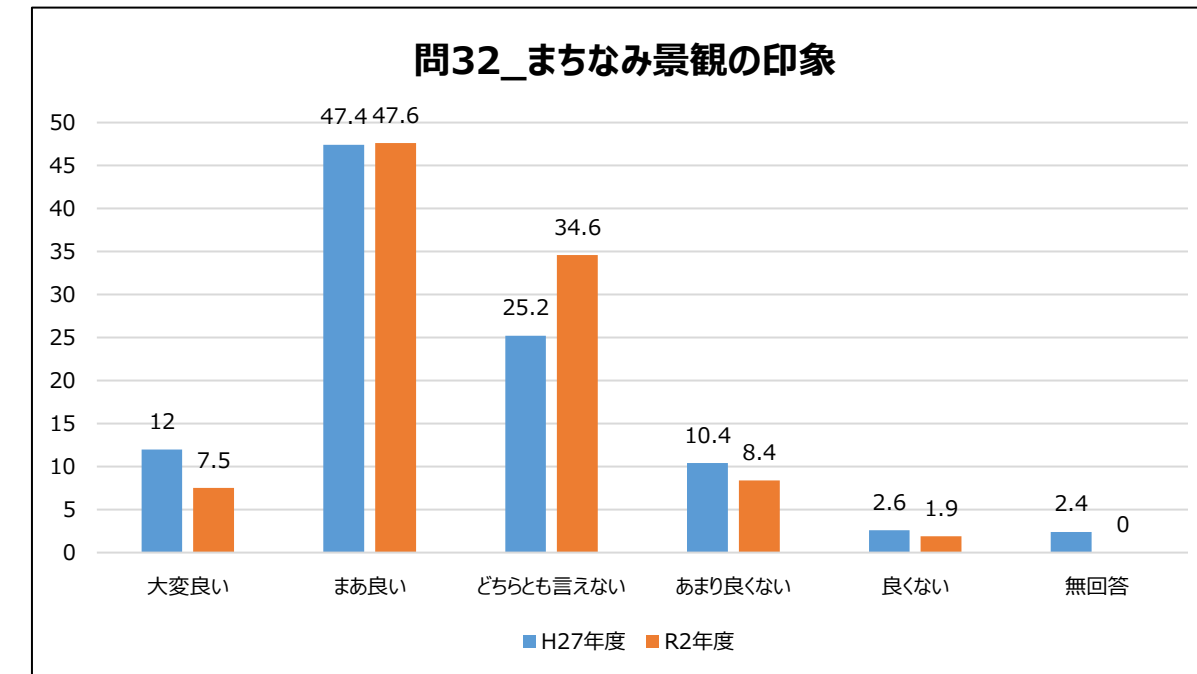
問23_高齢者になったとき、一緒に住む予定者

	H27年度		R2年度	
全体	986	100.0	1000	100.0
単身または夫婦だけで住む	269	27.3	724	72.4
子どもなど親族と一緒に住む	406	41.2	178	17.8
親族の近くで単身または夫婦だけで住む	249	25.3	67	6.7
知人や友人と一緒に住む	13	1.3	11	1.1
その他	31	3.1	20	2.0
無回答	16	1.8	-	-



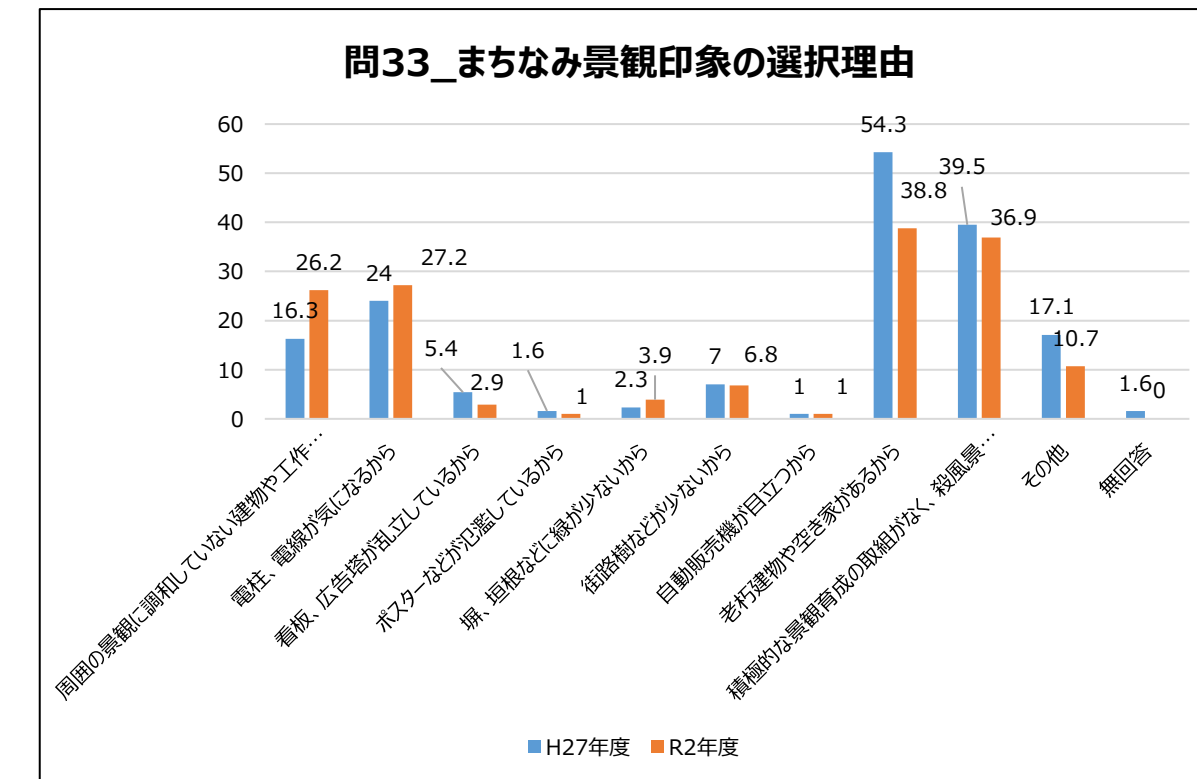
問32_ 現在住んでいる地区のまちなみ景観についての印象

	H27年度		R2年度	
全体	986	100.0	1000	100.0
大変良い	118	12.0	75	7.5
まあ良い	467	47.4	476	47.6
どちらとも言えない	248	25.2	346	34.6
あまり良くない	103	10.4	84	8.4
良くない	26	2.6	19	1.9
無回答	24	2.4	-	-



問33_ 景観印象の理由(2つまで選択可)

	H27年度		R2年度	
全体	129	100.0	103	100.0
周囲の景観に調和していない建物や工作物があるから(外壁の色、形など)	21	16.3	27	26.2
電柱、電線が気になるから	31	24.0	28	27.2
看板、広告塔が乱立しているから	7	5.4	3	2.9
ポスターなどが氾濫しているから	2	1.6	1	1.0
塀、垣根などに緑が少ないから	3	2.3	4	3.9
街路樹などが少ないから	9	7.0	7	6.8
自動販売機が目立つから	2	1.0	1	1.0
老朽建物や空き家があるから	70	54.3	40	38.8
積極的な景観育成の取組がなく、殺風景だから	51	39.5	38	36.9
その他	22	17.1	11	10.7
無回答	2	1.6	-	-



住生活基本計画（全国計画）の見直しスケジュール

令和元年

- 9月12日 第47回住宅宅地分科会
・我が国の住生活をめぐる状況の変化等について
- 10月29日 第48回住宅宅地分科会
・住生活基本計画に基づく主な施策の取組状況等について
・見直しにあたっての主な論点について
- 11月29日 住宅宅地分科会勉強会（第1回）
・個別論点（ストックの視点）
- 12月23日 第49回住宅宅地分科会
・個別論点（ストックの視点）

令和2年

- 1月16日 住宅宅地分科会勉強会（第2回）
・個別論点（居住者の視点）
- 2月18日 第50回住宅宅地分科会
・個別論点（居住者の視点）
- 5月28日 住宅宅地分科会勉強会（第3回）
・個別論点（産業・新技術の視点）（まちづくりの視点）
- 6月12日 第51回住宅宅地分科会
・個別論点（産業・新技術の視点）（まちづくりの視点）
- 6月26日 第52回住宅宅地分科会
・中間とりまとめ（案）のたたき台について
- 8月31日 第53回住宅宅地分科会
・中間とりまとめ（案）について
・我が国の住生活をめぐる状況等について
- 11月9日 **中間とりまとめ**

令和3年

- 1月18日 第54回住宅宅地分科会
・新しい住生活基本計画（全国計画）（案）について

<パブリックコメント・都道府県意見聴取>

- 2月26日 第55回住宅宅地分科会
・新しい住生活基本計画（全国計画）（案）について

<社会資本整備審議会からの答申>

<関係行政機関の長への協議>

- 3月 閣議決定

住生活基本法

平成18年6月施行

現行の住生活基本計画（全国計画）

【計画期間】 平成28年度～37年度

おおむね5年毎に見直し

新たな住生活基本計画（全国計画）

【計画期間】 令和3年度～令和12年度

住生活をめぐる現状と課題

○世帯の状況

- ・子育て世帯数は減少。高齢者世帯数は増加しているが、今後は緩やかな増加となる見込みである。
- ・生活保護世帯や住宅扶助世帯数も増加傾向にある。

○住宅ストック

- ・旧耐震基準や省エネ基準未達成の住宅ストックが多くを占めている。既存住宅流通は横ばいで推移している。
- ・居住目的のない空き家が増加を続ける中で、周辺に悪影響を及ぼす管理不全の空き家も増加している。

○多様な住まい方、新しい住まい方

- ・働き方改革やコロナ禍を契機として、新しいライフスタイルや多様な住まい方への関心が高まってきている。
- ・テレワーク等を活用した地方、郊外での居住、二地域居住など複数地域での住まいを実践する動きが本格化している。

○新技術の活用、DXの進展等

- ・5Gの整備や社会経済のDXが進展し、新しいサービスの提供や技術開発が進んでいる。
- ・住宅分野においても、コロナ禍を契機として、遠隔・非接触の顧客対応やデジタル化等、DXが急速に進展している。

○災害と住まい

- ・近年、自然災害が頻発・激甚化。あらゆる関係者の協働による流域治水の推進等、防災・減災に向けた総合的な取組が進んでいる。
- ・住まいの選択にあたっては、災害時の安全性のほか、医療福祉施設等の整備や交通利便性等、周辺環境が重視されている。

○上記課題に対応するため、3つの視点から8つの目標を設定し、施策を総合的に推進

① 「社会環境の変化」の視点

- 目標1 新たな日常、DXの推進等
- 目標2 安全な住宅・住宅地の形成等

② 「居住者・コミュニティ」の視点

- 目標3 子どもを産み育てやすい住まい
- 目標4 高齢者が安心して暮らせるコミュニティ等
- 目標5 セーフティネット機能の整備

③ 「住宅ストック・産業」の視点

- 目標6 住宅循環システムの構築等
- 目標7 空き家の管理・除却・利活用
- 目標8 住生活産業の発展

目標 1

「新たな日常」やDXの進展等に対応した新しい住まい方の実現

(1) 国民の新たな生活観をかなえる居住の場の多様化及び生活状況に応じて住まいを柔軟に選択できる居住の場の柔軟化の推進

(基本的な施策)

- 住宅内テレワークスペース、地域内コワーキングスペース、サテライトオフィス等を確保し、**職住一体・近接、在宅学習の環境整備**、宅配ボックスの設置等による**非接触型の環境整備の推進**
- 空き家等の既存住宅活用**を重視しつつ、意欲ある地方公共団体と緊密な協力関係を構築し、体験的な居住にも資する**賃貸住宅の提供**や**物件情報の提供**、**リフォーム**、**住宅取得環境の整備を進め**、**地方、郊外、複数地域での居住を推進**
- 住まいを柔軟に選択できるよう、性能が確保された物件の明確化、紛争処理体制の整備などの**既存住宅市場の整備**
計画的な修繕、持家の円滑な賃貸化など、**子育て世帯等が安心して居住できる賃貸住宅市場の整備を推進**

(2) 新技術を活用した住宅の契約・取引プロセスのDX、住宅の生産・管理プロセスのDXの推進

(基本的な施策)

- 持家・借家を含め、住宅に関する情報収集から物件説明、交渉、契約に至るまでの**契約・取引プロセスのDXの推進**
- AIによる設計支援等の住宅生産・管理プロセスのIT化や試行的なBIMの導入による効果検証等を通じた生産性の向上に向け、**住宅の設計から建築、維持・管理に至る全段階におけるDXの推進**

目標 2

頻発・激甚化する災害新ステージにおける安全な住宅・住宅地の形成と被災者の住まいの確保

(1) 安全な住宅・住宅地の形成

(基本的な施策)

- ハザードマップの整備・周知等による水災害リスク情報の空白地帯の解消**、不動産取引時における災害リスク情報の提供
- 地方公共団体の防災・まちづくり・建築等の部局間連携を強化し、地域防災計画、立地適正化計画等を踏まえ、
・災害危険区域の柔軟な指定や土砂災害特別警戒区域等の指定を進め、**豪雨災害等の危険性の高いエリアでの住宅立地を抑制**
・災害の危険性等地域の実情に応じて、優遇措置等の対象となる立地を限定し、**安全な立地に誘導するとともに、既存住宅の移転を誘導**
- 住宅の改修による耐風性等の向上**、耐震改修・建替え等による**住宅・市街地の耐震性の向上**
- 災害による停電、断水時等にも居住継続が可能な**住宅・住宅地のレジリエンス機能の向上**

(2) 災害発生時における被災者の住まいの早急な確保

(基本的な施策)

- 今ある既存住宅ストックの活用を重視して応急的な住まいを速やかに確保することを基本とし**、公営住宅等の一時提供や賃貸型応急住宅の円滑な提供
- 大規模災害の発生時等、地域に十分な既存住宅ストックが存在しない場合には、**建設型応急住宅を迅速に設置し**、被災者の応急的な住まいを早急に確保

目標3

子どもを産み育てやすい住まいの実現

(1) 子どもを産み育てやすく良質な住宅の確保

(基本的な施策)

- 住宅の年収倍率の上昇等を踏まえ、時間に追われる若年世帯・子育て世帯の**都心居住ニーズもかなえる住宅取得**の推進
- 駅近等の利便性重視の**共働き・子育て世帯等に配慮し、利便性や規模等を総合的にとらえて住宅取得を推進**。子どもの人数、生活状況等に応じた**柔軟な住替えの推進**
- 民間賃貸住宅の計画的な維持修繕や、賃貸住宅管理業者の適切な管理業務等を通じて、**良質で長期に使用できる民間賃貸住宅ストックの形成と賃貸住宅市場の整備**の推進
- 防音性や省エネ性能、防犯性、保育・教育施設や医療施設等への**アクセスに優れた賃貸住宅の整備**

(2) 子育てしやすい居住環境の実現とまちづくり

(基本的な施策)

- 住宅団地での建替えや再開発等における**子育て支援施設や公園・緑地等**、コワーキングスペースの整備など、**職住や職育が近接する環境の整備**
- 地域のまちづくり方針と調和したコンパクトシティの推進とともに、建築協定や景観協定等を活用した**良好な住環境や街なみ景観の形成等**

目標4

多様な世代が支え合い、高齢者が健康で安心して暮らせるコミュニティの形成とまちづくり

(1) 高齢者等が健康で安心して暮らせる住まいの確保

(基本的な施策)

- 改修、住替え、バリアフリー情報の提供等、**高齢期に備えた適切な住まい選びの総合的な相談体制**の推進
- エレベーターの設置を含む**バリアフリー性能やヒートショック対策等の観点**を踏まえた**良好な温熱環境を備えた住宅**の整備、リフォームの促進
- 高齢者の健康管理や遠隔地からの見守り等**のためのIoT技術等を活用したサービスを広く一般に普及
- サービス付き高齢者向け住宅等**について、自立度に応じた生活を営める住まいとしての性格を重視して、地域の需要や医療・介護サービスの提供体制を考慮した**地方公共団体の適切な関与**を通じての**整備・情報開示**を推進

(2) 支え合いで多世代が共生する持続可能で豊かなコミュニティの形成とまちづくり

(基本的な施策)

- 住宅団地での建替えや再開発等における**医療福祉施設、高齢者支援施設、コミュニティスペース等**の生活支援や地域交流の拠点整備など、**地域で高齢者世帯が暮らしやすい環境の整備**
- 三世同居や近居、身体・生活状況に応じた円滑な住替え等**が行われるとともに、家族やひとの支え合いで高齢者が健康で暮らし、**多様な世代がつながり交流する、ミクスコミュニティの形成**

目標5

住宅確保要配慮者が安心して暮らせるセーフティネット機能の整備

(1) 公営住宅、セーフティネット登録住宅、UR賃貸住宅等による住宅確保要配慮者の住まいの確保

(基本的な施策)

- 住宅セーフティネットの中心的役割を担う公営住宅の計画的な建替えや、バリアフリー化や長寿命化等のストック改善の推進
- 地方公共団体と民間団体等が連携を強化し、緊急的な状況にも対応できるセーフティネット登録住宅の活用を進め、地方公共団体のニーズに応じた家賃低廉化の推進
- UR賃貸住宅を活用し、多様な世帯のニーズに応じた賃貸住宅の提供を進めるとともに、ストック再生を推進し、多様な世帯が安心して住み続けられる環境を整備

(2) 福祉政策と一体となった住宅確保要配慮者の入居・生活支援

(基本的な施策)

- 国・地方それぞれにおいて、住宅・福祉部局の一体的・ワンストップ対応による公営住宅・セーフティネット登録住宅や、住居確保給付金等の生活困窮者自立支援、生活保護等に関する生活相談・支援体制の確保
- 地方公共団体の住宅・福祉・再犯防止関係部局や、居住支援協議会、居住支援法人等が連携して、住宅確保要配慮者に対する入居時のマッチング・相談、入居中の見守り・緊急時対応や就労支援等の実施
- 賃借人の死亡時に残置物を処理できるよう契約条項を普及啓発。多言語の入居手続に関する資料等を内容とするガイドライン等を周知

目標6

脱炭素社会に向けた住宅循環システムの構築と良質な住宅ストックの形成

(1) ライフスタイルに合わせた柔軟な住替えを可能とする既存住宅流通の活性化

(基本的な施策)

- 基礎的な性能や優良な性能が確保された既存住宅の情報が購入者に分かりやすく提示される仕組みの改善（安心R住宅、長期優良住宅）を行って購入物件の安心感を高める
- これらの性能が確保された既存住宅、紛争処理等の体制が確保された住宅、履歴等の整備された既存住宅等を重視して、既存住宅取得を推進
- 既存住宅に関する瑕疵保険の充実や紛争処理体制の拡充等により、購入後の安心感を高めるための環境整備を推進

(2) 長寿命化に向けた適切な維持管理・修繕、老朽化マンションの再生（建替え・マンション敷地売却）の円滑化

(基本的な施策)

- 長期優良住宅の維持保全計画の実施など、住宅の計画的な点検・修繕及び履歴情報の保存を推進
- 耐震性・省エネルギー性能・バリアフリー性能等を向上させるリフォームや建替えによる安全・安心で良好な温熱環境を備えた良質な住宅ストックへの更新
- マンションの適正管理や老朽化に関する基準の策定等により、地方公共団体による管理計画認定制度を定着させ、マンション管理の適正化や長寿命化、再生の円滑化を推進

目標6

脱炭素社会に向けた住宅循環システムの構築と 良質な住宅ストックの形成

(3) 世代をこえて既存住宅として取引されうるストックの形成

(基本的な施策)

- 2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、省エネルギー性能を一層向上しつつ、**長寿命でライフサイクルCO₂排出量が少ない長期優良住宅ストックやZEHストックを拡充**し、ライフサイクルでCO₂排出量をマイナスにする**LCCM住宅の評価と普及**を推進するとともに、住宅の省エネ基準の適合率を向上させるための更なる規制措置の導入を検討
- レジリエンス機能の強化に資する**住宅・自動車におけるエネルギーの共有・融通を図るV2H**（電気自動車から住宅に電力を供給するシステム）の普及を推進
- 炭素貯蔵効果の高い木造住宅等の普及や、CLT（直交集成板）等を活用した中高層住宅等の木造化**等により、まちにおける炭素の貯蔵の促進
- 住宅事業者の**省エネルギー性能向上に係る取組状況の情報を集約し、消費者等に分かりやすく公表**する仕組みの構築。高い省エネルギー性能や、CO₂排出量、長期優良性、既存宅地を重視して、住宅取得を推進

目標7

空き家の状況に応じた適切な管理・除却・利活用の一体的推進

(1) 空き家の適切な管理の促進とともに、周辺の居住環境に悪影響を及ぼす空き家の除却

(基本的な施策)

- 所有者等による**適切な管理の促進**とともに、周辺の居住環境に悪影響を及ぼす**管理不全空き家の除却等や特定空家等に係る対策の強化**
- 地方公共団体と地域団体等が連携して空き家所有者のための相談体制を強化し、**空き家の発生抑制や空き家の荒廃化の未然防止、除却等**を推進
- 所有者不明空家**について、市町村による略式代執行等の法務的手続きを支援するとともに、**財産管理制度の活用等**の取組を拡大

(2) 立地・管理状況の良好な空き家の多様な利活用の推進

(基本的な施策)

- 空き家・空き地バンク**を活用しつつ、地方公共団体と民間団体等が連携して、**古民家等の空き家の改修・DIY等を進め、セカンドハウスやシェア型住宅等、多様な二地域居住・多地域居住を推進**
- 中心市街地等において、**地方創生やコンパクトシティ施策等と一体となって、空き家の除却と合わせた敷地整序や、ランドバンクを通じた空き家・空き地の一体的な活用・売却等**による総合的な整備を推進
- 空き家の情報収集や調査研究活動、発信、教育・広報活動を通じて**空き家対策を行う民間団体等の取組を支援**

目標 8

居住者の利便性や豊かさを向上させる住生活産業の発展

(1) 地域経済を支える裾野の広い住生活産業の担い手の確保・育成

(基本的な施策)

- 地域の住まいを支える**大工技能者等の担い手の確保・育成を、職業能力開発等とも連携**しつつ進めるとともに、地域材の利用や伝統的な建築技術の継承、**和の住まいを推進**
- 中期的に生産年齢人口が減少する中で、**省力化施工、DX等を通じた生産性向上**の推進
- CLT等の新たな部材を活用した工法等や中高層住宅等の新たな分野における**木造技術の普及**とこれらを担う設計者の育成等

(2) 新技術の開発や新分野への進出等による生産性向上や海外展開の環境整備を通じた住生活産業の更なる成長

(基本的な施策)

- AIによる設計支援やロボットを活用した**施工の省力化等**、住宅の設計・施工等に係る生産性や安全性の向上に資する新技術開発の促進
- 住宅の維持管理において、**センサーやドローン等を活用した住宅の遠隔化検査等の実施**による生産性・安全性の向上の実現に向けた新技術の検証・活用
- 官民一体となって我が国の住生活産業が**海外展開しやすい環境の整備**

基本的な考え方

- 大都市圏については、依然として**長時間通勤の解消、居住水準の向上、密集市街地の改善等の特有の課題が存在**。
- このため、社会環境の変化等に伴う多様な世代のライフスタイルに応じた居住ニーズの変化、良質な住宅・宅地ストックの形成・流通・管理・更新を考慮しつつ、**それぞれの世帯が無理のない負担で良質な住宅を確保**できるよう、住宅の供給等及び住宅地の供給を図っていくことが必要。
- 具体的には、以下のとおり、**多様な世代がライフスタイルに応じて安心して暮らすことができる、良質な住宅・宅地ストックを活かした良好な居住環境の形成**に配慮しながら、地域の属性に応じた施策を推進。

・都心の地域その他既成市街地内

土地の有効・高度利用・適正な管理、災害新ステージや「新たな日常」への対応、既存の公共公益施設の有効活用、生産性向上にも資する職住近接の実現等の観点から、**建替えやリフォーム等を推進するとともに、良質な住宅・宅地ストックの流通や空き家の有効利用を促進**する。

・郊外型の新市街地開発

既に着手している事業で、自然環境の保全に配慮され、将来にわたって地域の資産となる豊かな居住環境を備えた優良な市街地の形成が見込まれるものに厳に限定する。

目標1 「新たな日常」やDXの進展等に 対応した新しい住まい方の実現

- ① DX推進計画を策定し、実行した大手住宅事業者の割合 新規

0% (R2) → 100% (R7)

目標2 頻発・激甚化する災害新ステージ における安全な住宅・住宅地の形成と 被災者の住まいの確保

- ② 地域防災計画等に基づき、ハード・ソフト合わせて住まいの出水対策に取り組む市区町村の割合 新規

— (R2) → 5割 (R7)

- ③ 耐震基準（昭和56年基準）が求める耐震性を有しない住宅ストックの比率

13% (H30) → おおむね解消 (R12)

- ④ 危険密集市街地の面積及び地域防災力の向上に資するソフト対策の実施率

【面積】約2,220ha (R2)

→ おおむね解消 (R12)

【地域防災力の向上に資するソフト対策】

約46% (R2) → 100% (R7)

目標3 子どもを産み育てやすい住まいの実現

- ⑤ 民間賃貸住宅のうち、一定の断熱性能を有し遮音対策が講じられた住宅の割合 新規

約1割 (H30) → 2割 (R12)

- ⑥ 公的賃貸住宅団地（100戸以上）における地域拠点施設併設率（UR団地の医療福祉拠点化（250団地程度）を含む。） 新規

29% (R元) → おおむね4割 (R12)

目標4 多様な世代が支え合い、高齢者が健康 で安心して暮らせるコミュニティの形成とまちづくり

- ⑦ 高齢者の居住する住宅のうち、一定のバリアフリー性能及び断熱性能を有する住宅の割合

17% (H30) → 25% (R12)

- ⑧ 高齢者人口に対する高齢者向け住宅の割合

2.5% (H30) → 4% (R12)

目標5 住宅確保要配慮者が安心して暮らせる セーフティネット機能の整備

- ⑨ 居住支援協議会を設立した市区町村の人口カバー率 新規

25% (R2) → 50% (R12)

目標6 脱炭素社会に向けた住宅循環システムの 構築と良質な住宅ストックの形成

- ⑩ 既存住宅流通及びリフォームの市場規模

12兆円 (H30) → 14兆円 (R12)

→ 20兆円（長期的目標）

- ⑪ 住宅性能に関する情報が明示された住宅の既存住宅流通に占める割合

15% (R元) → 50% (R12)

- ⑫ 25年以上の長期修繕計画に基づく修繕積立金額を設定している分譲マンション管理組合の割合

54% (H30) → 75% (R12)

- ⑬ 住宅ストックのエネルギー消費量の削減率（H25年度比）※ 新規

3% (H30) → 18% (R12)

※ この指標は、地球温暖化対策計画(H28閣議決定)における目標に基づき設定したもの。同計画に変更があった場合には、この目標も同様に変更されたものとみなす。

- ⑭ 認定長期優良住宅のストック数 新規

113万戸 (R元) → 約250万戸 (R12)

目標7 空き家の状況に応じた適切な管理・除却 ・利活用の一体的推進

- ⑮ 市区町村の取組により除却等がなされた管理不全空き家数 新規

9万物件(H27.5~R2.3) → 20万物件(R3~12)

- ⑯ 居住目的のない空き家数※

349万戸(H30) → 400万戸程度におさえる(R12)

※ 住宅・土地統計調査(総務省)における賃貸・売却用等以外の「その他」の空き家数

長野県住生活基本計画の変遷

